2—473

島田三郎・安部磯雄監輯

廓清

第三巻第拾貳號

主張 社會之改良・風紀之廓清・男女之貞潔・家庭之和樂

目次

▲大正二年を送る……記者
▲風紀取締に關する政府の矛盾……早大教授 安部磯雄
▲廢業婦人……救世軍大佐 山室軍平
▲常識より見たる藝妓問題……指田和郎
▲藝妓問題……福井新聞
▲人間の香ばしい薫り……萬朝報記者 茅原華山
▲新しき意味の良妻賢母……慶大教授 向軍治
▲異性に對する理想……基督教世界主筆 加藤直士
▲北滿洲の醜業婦……關東都督府囑託 柴田博陽
▲南洋名物の醜業婦……在南洋 藤田天民
▲凡て人たらんとする欲求……帝大助教授 大島政德
▲不良少年と家庭……警視廳 山本捜査係長
▲盲目的愛と國民性……夕陽丘女學校校長 伊賀駒吉郎
▲主婦日常の心得……婦人記者
▲母親の心得……婦人記者
▲寄書と來翰……

東京 廓清會本部 發行

歳末の禮を缺ぐ

謹みて會員諸君の健康を祝し本會の發展を謝す

大正二年十二月十五日

廓清會本部役員地方支部役員一同

出版書目

歐洲諸國醜業公認制度廢止運動　定價一冊　拾五錢　郵稅貳錢

右は先般本邦に來援せられたるモーリスグレゴリー氏の著書を譯譯せしものにして、安部磯雄氏の嚴密なる校閲を經たるものなり。自己の研鑽の爲め將又主張貫徹の爲め、最も有力なる武器なり。務つて購讀あれ。

伯爵　大隈重信述

廓清叢書第一卷　**公娼廢止論**　廓清會理事　益富政助述

廓清叢書第二卷　**此罹災者を救へ**　救世軍大佐補　山室軍平述

廓清叢書第三卷　**道樂者への强異見**（品切）　救世軍大佐補　山室軍平述

廓清叢書第四卷　**自由廢業を奬勵する理由**（品切）　廓清會長　島田三郎述

廓清叢書第五卷　**廓清會組織の趣意**　廓清會副會長　安部磯雄述

廓清叢書第六卷　**公娼制度と社會の風儀**

定價一冊各貳錢　郵稅六冊迄貳錢

本會に所用の方は
東京神田區美土代町三丁目三番地
廓清會本部
電話本局四九四〇番
宛に願上候

會費の納入

會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。

（注意）前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名儀にして廓清會所有にあらす、依て御送金の節は、必す益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓清會費」と明記ありたし。

大正二年十二月十四日納本　一部定價金六錢
大正二年十二月十五日發行（每月一同十五日發行）

編輯兼發行人　神田區三河町一丁目十四番地　伊藤秀吉
印刷人　神田區三河町一丁目十四番地　小林照雄
印刷所　神田區三河町一丁目十四番地　丸利印刷所
發行所　神奈川縣川崎町砂子百三番地　廓清發行所

THE PURITY
廓清

第三巻第十二號（十二月）

大正二年を送る

さわ〳〵と秋風が木の葉を撫でたと思ふと、もういつの間にか大正二年の幕は閉されてゐた。

西へ、西へと流れ行く年の瀬に立つて、靜に首をめぐらし過去を追想して見ると、無量の感慨が何人にも湧かう。新春初頭には誰しも相當の期待がある。而して其或者は今會心の笑を洩らしてゐるであらう。其或者は眉を顰めて來らん年こそはとも思つてゐやう。

我廓清會の過去一年はどうであつたか、顧て忸怩たるなきを得ない。けれども元々我等の畑は眼に見えない精神界である。公娼制度の撤廢、それは勿論形の上の事ではあるが、やはり精神界を耕さなければ成就されない處である。されば斯くして、我等は美はしい「貞潔」の種を力の限り今年も八方に種へつけた。

その種が、今此處にも、彼處にも、躍如として芽生へんとしてゐる。その潜在域の活動を我等は容易に感受するのである。而して其處に無限の喜びを覺ゆ。茜さす望みの曙、それが刻々として我等に近づき來ることを思ふとき、廓清會員には最高至上の美はしい怡悦がある。

我等は茲に大正二年を送るに當つて、過去一年間に於ける有形無形の成績を一々指摘する繁を避けたい。唯此の誇りを誇つて、本年に於ける各位の奮闘を深謝し、健康を祝する。

Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

風紀取締に關する政府の矛盾

廓清會副會長　安部磯雄

（一）風紀の取締と精神上衛生取締の謂である

風紀の取締は、衛生の取締と全く同一に見做す可き性質のものである、何となれば風紀とは所謂精神上の疾患を指すものであつて、傳染的の性質を具有し、殊に男女關係に至つては、虎列刺赤痢の蔓延よりも遥に急速なる傳染力を有する怖る可きものである。されば風紀取締といふことは、直に精神上に於ける衛生の取締であるといふて、差支はない。

衛生の取締に就ては、日本の政府は餘程以前から深き注意を拂つて近來は漸次其成績を現はしてゐる。折々傳染病の勃發することがあるにしても、段々少くなる傾向を充分示してゐる。此點に於ては我々は尠からず意を安んずる事が出來るやうになつた。然るに今、衛生上の取締と風紀の取締とを並べて、之を對比して觀るに、傳染病の發生したる場合に於ける政府の措置は、緩漫どころではなく頗る敏速に、學理的に殆んど遺憾なくあらゆる方面から手當が行はれる、否更に進んで平生から之が豫防に周到なる注意が拂はれてゐるのである。春秋二回に强制的に大掃除をやらせる、泥溝浚へ等も度々行てゐる。我々は斯ういふ點から云ふならば、衛生の方面に於ける政府の努力に對して、平素感謝してゐる者である。

然るに翻つて風紀の取締、即ち精神上の衛生的施設は如何肉體の衛生上に就て細心の注意を惜しまざる政府當局は、何故か寧ろより恐る可き精神的衛生取締を緩慢に附してゐるのである。私は衛生の取締と風紀の取締とが、二者全く同一であるとした。從つて今日の如く之に對する政府の態度が著しく異るものあるに對して奇怪とせざるを得ぬのである。

（二）風紀の訓令など乍ら實際問題に風馬牛

併し乍ら政府當局者に、風紀取締は緩慢でもいゝものであるかと借問したならば、無論言下に『否』と答へるであらう。蓋し現内閣に於ては、文部大臣も内務大臣も中々風紀取締に就ては頭を惱まして居つて、決して放任してゐる譯ではない殊に文部大臣の如きは、學生に對して、社會の惡風に染まぬやう、風紀や道德の訓令などをする處を以て見れば、餘程この精神上の衛生取締にも重きを置いてゐるものと見なければならぬ。なる程彼等も全然無頓着ではないやうであるが、併し日々我々の眼の前に現はれて來る處の實際問題に對して、甚しく政府は怠慢であり風馬牛であるのに、我等は驚き而して之を糺さんとするものである。

此頃新聞の三面に表はれてゐる彼の横濱のペストに就ては何人も注意を以て讀んでゐる。處が此のペストよりも更に怖る可き傳染力を有する精神上のペストが毎日々々三面記事に

より大きく流行してゐることを示してゐるにも拘らず、之が取締に頗る緩慢であるといふことは、何たる不透明の眼光であらうか、何たる不徹底の頭腦であらうか。身體の衞生は一生懸命に心配し乍ら、精神上の病氣は如何に恐る可きものであつても、放任して顧みないといふのは、之れは實に政府の方針から云へば矛盾である、撞着極まることである。

《三》大正博上棟式に於る下水の噴水を何と觀る

我々は平生、藝娼妓のやうなものは恰も下水のやうなものであると主張してゐる。比喩として此下水が一番適切である私の立場は、下水は無くする事は出來ぬ、それは平生云つてゐる通り下水は都會にくつついてゐる誠に已むを得ないものであるが、唯其取扱上、道路の表面に流れる儘にしてゐるといふのがいけない、地の下に人の眼につかないやうに流せといふ、これが我々の平生主張する處である。

然るに政府の行り方は、下水が道路を流れる以上、日比谷公園邊りの噴水のやうに、下水の噴水を設くるやうなことをやつてゐるのである。私共は其事を始終いふてゐるのに、此頃現はれた事實に、大正博覽會上棟式事件がある。東京市内から八百人といふ多勢の藝妓を上野に集めて、上棟式をやつたといふことで、新聞紙は、

上野公園の大正博覽會の上棟式の花たる八百人の美姫は、東京の各花柳界の粹を集めたるものにて、何れも白襟紋附に赤襷、赤前垂掛といふ扮裝なるが、獨り吉原藝妓だけは自慢の獅子と大太鼓を持出して手古舞姿華かに繰込み藝妓詰所なる博物館前の林業館内は四方を紅白の幔幕で仕切り、其處にはそれ〲土地々々の名を貼り出し、紅裙隊は其下へ屯する事とした。何しろ八百といふ大小妓が今日を晴れと着飾つたの故、四季の花が一時に咲いたやうと形容するよりも、館内一面に花毛氈を敷き詰めたといふ有樣、紅紫白黄赤の色とり〲の綾を投げたに異らず、之を亦見物しようとするシルクハットの連中が、極り惡氣の可笑しさ、宛然女護の島に彼等の魂飛ばんばかり

などいふ事を報じてゐる、之れ何といふ失態であるか、敢て私は當局者の責任を問はなければならぬと思ふ。

今日の青年や學生などに嚴重なる訓令を下してゐる文部大臣が、斯ういふ事を見遁しにすることが出來るか。また今日警視廳に於ては不良少年狩と云つて、不良少年の取締に就て活動してゐる樣であるが、其警視廳が一方に大正博覽會に八百人の藝妓が堂々と繰出すのを見逃しにして、これを如何に辯解せんとするか、政府の處置として矛盾に非ずとする乎。

之を前の比喩でいふならば、上棟式の花と稱へて、醜穢なる下水の噴水を大仕掛に作つたのである。到底正氣の沙汰ではない。それを當局者が默つて見てゐるといふのは不思議千萬な事である、如何に今日の社會が物質的になつたとて、唯身體の衞生さへ一生懸命やつて居ればいゝ、赤痢や虎列剌に對する設備さへ完全して居ればいゝといふのであらうか。

《四》酉の市は傳染病院の大園遊會

今一つ事實を擧ぐれば、つい先日行はれた吉原の酉の市である。各新聞は筆を揃へてその盛況を報じてゐる。

元來政府が吉原などを設けた趣意は何處にあるか、あゝいふものを市內良民の間に置てはいかぬ、可成隔離せなければならぬといふにある。恰も傳染病に對して傳染の憂を絕つ爲に人の居ない處に避病院を設け、病人を送り込む樣なものである、遊廓は正に其意味に於て出來たのである。風紀の上か

ら遊廓といふ避病院を作つたのであるのに、一年に一回か二回の事とはいひ乍ら、酉の市などゝ稱するものを設け、非番巡査まで招集するといふ位非常なる大雜踏を以て不良なる人が行く外、不良ならざる青年や娘、ありとあらゆる者が恐く廓内に流れ込んで、盛裝したる賣淫婦を眺め、店の前に誇りかに高く積まれたる所謂『積夜具』を見物するといふのは、實に咄々怪事ではないか。某新聞は『艶しき積夜具』と題して書いて居つた。之はよく其意味を現はしてゐると思ふ。心ある人が見て起る處の聯想は『艶かしき』の一語に盡きるのである。それを政府は見逃しにしてゐるのである、之れ政府が遊廓を作つた精神に背反するものでないか。

丁度身體の傳染病を除く爲に避病院を設けて、其避病院に於て燈籠をさげるとか、作り花をするとかして、誰でも見に來いと常に公衆を招き、其上時を定めて避病院で大園遊會を開く樣なものである。若し其麼馬鹿をしたらどうであらう、天下の人々は大々的に必ず反抗する、政府當局は氣狂であるとするであらう。然るに此の避病院に於ては一人として、假りにも其麼夢想をなす者がない程に智識が進んでゐるけれども、精神的の避病院、吉原といふ最も危險なる傳染病院は、酉の市といふ實に大々的の大園遊會を開いて健全なる人々をどし／＼招いてゐるといふのは、論理上から政府の取締を矛盾であると斷定せない譯には行かぬ。

（五）政府は先づ精神界のペストを撲滅せよ

茲於一言しなければならぬ、政府は風紀取締なるものゝ眞義を了解してゐないといふ事である。政府が娼妓問題を論ずる時、彼等は殆んど風紀といふ事を考へてゐない、彼等の考ふる風紀取締なるものは、我等の說くが如き精神的の意味にあらずして、肉體的に理解されてあるらしいといふ事である、即ち彼等は唯梅毒を恐るゝのである。之を怖がつてゐる迄の事である。此梅毒を防ぐが爲に娼妓を一廓に集め、そこで取締をしようといふ考にしか過ぎない樣に思はれる。今の日本の當局者は、身體の衞生といふ事は熟知してゐるけれども、眞の意味の風紀取締をなし得るほどの程度に達してゐないのである。故に吾人は敢て說明の勞を取つた。希くば當局者は速に吾人の言を納れて、肉體上の梅毒の取締をなすが如く、精神上の衞生に注意せられむ事を望む。

若し大正博覽會の上棟式の出來事や、吉原の酉の市の如きものに對して、依然として取締の方法を講じないやうならば大臣が、學生等の風紀や道德の問題に嘴を入れる事は以後止めて貰ひたい。警視廳も亦不良少年の取締など止めて貰ひたい。何故かならそれは實に撞着であるからである、滑稽であるからである、風紀取締の何物なるかを知らないからである。而して勞して效なきものであるからである。

眞實に風紀取締の精神を徹底せしめんとならば、學生への訓示と共に、その腐敗墮落の原因たる藝妓を八百人も集めるやうな事を禁じなければならぬ。不良少年の取締と共に、其發出の原因たる遊廓で大騷して誘惑挑發するやうなことを止させなければならぬ。斯くして始めて政府のなす事が合理的にして且つ統一的になるのである。身體の衞生に成功した當局は、一歩進んで精神界のペストやコレラの撲滅に努力を惜しまざらん事を切に勸告する。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廢業婦人

廓清會評議員　山室軍平

○どう云ふ悲鳴をあげるか

古いお話であるが、何でも一人の年の若い男があつた、獵をする事が好きで暇さへあれば鐵砲を擔いで野山を驅廻り鳥や獸類を射殺して喜んで居つた。所が其母親と云ふのが大層熱心な佛敎信者で、殺生をすることはいけないと云ふ事を信じて居た。それで折を見ては自分の伜に罪な事だから殺生は止めて呉れと言聞かして居つたが、何うしても止めない。そこで或日お母さんがお寺へ行つて和尚さんに、

「何うも伜が殺生をして困るから、何とか意見をして下さい」と頼んだ。和尚さんは「サア俺が言つて承知するか何うか分からないが、兎も角もよこして見なさい」と云ふ。そこでお母さんが伜にお寺の和尚さんがお前に逢ひたいと云ふから一寸行つて來たら宜からうと申した。伜は「はア私が殺生を止めないものだから和尚さんに頼んで意見をする積だなあ、併しお母さんがお世話になつて居るから、和尚が來いと云ふのならば一寸行つて來ませう」。そこでお寺へ行つたさうである。さて和尚に會つて「何か御用ださうですが、一寸お斷りして置きます、若し私に殺生を止めろと云ふお話ならばそれは仰しやつても駄目ですから」と先んずれば人を制すと云ふやうで、前以て口止めをしてしまつた。和尚さんは然う好きな殺生なれば是非止めろとは言はないが、併し外の話ならば聞きなさるか」「左樣、外の話なれば聞きませう」「それでは賴みたい事がある、是れから何時でもお前が、その好きな獵をする爲めに鐵砲を擔いで野山を驅走く時、打出した鐵砲が鳥獸の何う云ふ所に中つて、何う云ふ悲鳴を揚げて、何う云ふ姿で仆れて居て、それを何う行つて押へたか、一遍〳〵見て置いて貰ひたい。そして私が呼びにやるから、其時に話をして聞かして呉れないか」「イヤそんな話ですか、それならば明日からでも一つ見ておいてお話しませう」と其男は歸つたさうである。所が今度は一週間も經たない内に和尚さんが呼ばないのに自分でお寺へ行つて「何うも和尚さんは酷いことを言はれた」「酷いとは何う云ふ譯か」「どう云ふ譯かつて、それは貴僧に分つて居りませう。實は貴僧にア、言はれてから今までは何とも思はなかつたが、さて鐵砲の玉を打出して、この玉が相手の鳥や獸の何う云ふ所に中るか、又何う云ふ悲鳴をあげて悶え苦しむかと、よく〳〵氣をつけて見ると、今まではこれ程面白いことはないと思つて居た獵が、何とも云はれぬ慘酷な感がして二度と再び、かう云ふ殺生をするに氣にもなれなくなりました」と云ふ昔の物語がある。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

〇自己の性慾のみを云はゞ娼妓の生活を思へ

之れも矢張婦人にとりては古い話であるが、私が考へるには今時に遊廓が必要だと唱へて居ます人々が、自分等の情慾を充す爲めに其遊廓に娼妓の名の下に彼云ふ生活をして居る婦人達があると云ふ事を考へないで、唯重い職業に携はつて居る男子は、その慾を滿すべく場所がなくてはならぬと申すのである。古い議論ではあるけれども、男子が夫婦間でない所に情慾を滿す爲めの設備が要ると云へば、矢張婦人にも要ると云はなければならぬが、そんな事は有り得べからざることである。人間の性慾と云ふものは相當の程度まで之を抑制して行かなければならぬものである。

私は先達て婦人に就て少しばかりの調べを持つて居るのである。之れは東京の婦人ホームに引取りたる娼妓をして居つた婦人で、其二十五人に就て調べた所に依ると、多くは關東のもので、吉原が十二人、洲崎が五人、大阪が三人、京都が三人、品川が一人、新宿が一人、北の新地が二人、其二十五人の娼妓に就て、何う云ふものがなつて居るかと調べて見ると其内の十四人までは、十五歳になるまでに兩親か、少くとも片親を亡くして居ると云ふ事實を發見した。それから娼妓になつた婦人の親の性行は怎うであつたかと云ふと、二十五人の内の三分の二迄は酒飲みであると云ふ事實を發見した。又其娼妓の教育は何うであつたかと云ふと、小學校へも行つたことのない者が十二人あつた。卽ち其半數は學校の恩澤を受けて居ない。外の十三人は學校へ行つたが、尋常三年迄で止めて仕舞つたものが其半數を占めて居る。それから娼妓をして居る婦人の宗教はと云ふと、殆んど宗教らしい宗教を持つて居るものがない事を發見した。唯無意味に手を合せて拜むことしか知らない。そして多少宗教的信仰を持つて居る者は二十五人の内で五人しかなかつたのである。日本の現在に於ける宗教の力と云ふものは何んな程度にあるかと云ふことが之に依つて知られる。力ある宗教、人の生活を支配する所の宗教と云ふものは今日日本には打絶えて仕舞つたのではないかと云ふやうな感じがするのである。

〇最初より娼妓になるため家を出る者はない

又二十五人の廢業娼妓に就て、何う云ふ職業を持つて居るか、或は技藝を知つて居るかと云ふことを調べて見るに、其内に何にも知らぬ藝のない人が十一人あると云ふ事を見出したのである。何か手に藝があると云へば其藝に依つて糊口を凌いで行けるが、どうも藝がない爲に巳むを得ず、娼妓になつて居ると云ふものがあるが、又藝を知つて居る爲めに却つて其藝が基になつて娼妓になつて居ると云ふのも發見した。尤も大概は貧乏の爲めに娼妓になつたと云ふものが大部分であつたが、必しもそればかりではない、可成りに暮して居る家の者でも、自分の心得違ひから墮落して身を娼妓に賣つて居ると云ふのも、少しばかりはあるのである。二十五人の娼妓は何う云ふ年頃で家を出たかと云ふと、娼妓になる爲に始めから家を出たと云ふ者は一人もない。大抵は其前に親の膝許を離れ、或は親がないから、他人の家へ出掛けて行つたと云ふものが多い。

で最初自分の家を出た年は二十五人の内の十四人までは十

五歳に達しない前に、親の家を出て仕舞つて居るといふ事を見出したのである。それで其生れた家を何う云ふ風に出たかを調べて見るに奉公に出たものが十四人ある。其内に七歳から奉公した者が一人、八歳が一人、九歳が二人、十二歳が二人、十三歳が一人、十四歳が一人、十八歳が二人と云ふ事になつて居る。當り前なれば、此の位の年頃では小學校に通つて居る時である。それで家さへ相當にやつて居れば立派な敎育も受けられるものである。皆さんは何れも立派な敎育を受けて居られて立派な家庭を作つて居られやうが、皆さんの家庭にも亦斯う云ふ境遇の婦人に女中なり奉公人なりとなつて働いて居る事であらう。斯う云ふ婦人達の身の上を思へば是等の者の將來に就ては充分考て遣らなければならぬかと思ふ

○貧乏したら何故働かないか

で二十五人の内の十四人が最初奉公に出たが、それが藝者になつたものが一人、酌婦になつたものが一人、其他機械とか糸取りとか云つたものが多くある。それから二十五人の内で娼妓になる前に結婚したものはあるかと云ふに、其内十人だけが人に嫁した事のある婦人であると云ふ事が發見された内で正式に結婚したものが六人、内縁のものが四人である。何うしてそれが別れて娼妓になつたかと云ふと、夫と合はないのが二人、姑や夫の妹等と衝突したのが二人、一人は夫が死んだため、一人は夫が犯罪をしたゝめ、一人は夫が放蕩の爲め、一人は自分が不品行のため、能くは分からないが、自分の不品行のためと云ふのは自分の姉の嫁入先で其姉が死んだ、處が其姉の夫と云ふのが自分の家に金を貢いで居たから否む事も出來ずに姉の後釜に据はるため妹が嫁入りをさせられたと云ふので愛情がある筈がないから、自然心が染まず、不品行のことをしたと云ふのであつた。婦人の内には夫との愛情が合はなかつた爲に斯う云ふ目に遭つて居るものが少くないと云ふ事實に注意して置く必要がある。

それから又娼妓になるツイ前には何をして居つたかと云ふことを調べて見ると、これまでにして居つた仕事とは大分異つて居る。其當時酌婦をして居つたものが六人、料理店に奉公したものが一人、機織りが三人、下女が一人。それから娼妓になるのに知人の許から行つたものが一人、親許から出たものが七人、それから又一度嫁入をして離縁になつて家に歸つて來て食へないから娼妓になつたと云ふのが少なくないのである。夫の許から直接娼妓になつたものが三人もあるのであつて、何が故に娼妓になつたかと云ふ事を調べて見ると、多くは小さい時から親を失つたことも、親に離れたことも、敎育がないことも、是等が悉く集つて原因をなして居るのである。けれども其娼妓になる直ぐ前の最も強い原因は何であるかと云ふと、即ち最後の一番強い原因は貧の爲めと云ふのが五人である。隨分貧のためと云へば道理と考へれば考へられない事もないが。併し乍ら貧乏したからと云つて身を賣らなければならぬ筈はない、貧乏したら何故女工にならないか何故奉公しないか、貧乏すれば娼妓になるといふやうな。其麼遊廓を誰が立てたかと云ふ事を考へて居ると、何うしてもかう云ふ制度と云ふものは存在をさせてはならぬ。

○一ケ月三圓幾らの前借のため

それから親權者のために陷いれられて、伯母とか叔父とかに欺されて娼妓に身を賣つたと云ふものが三人ばかりあつた奉公して居る所から娼妓になつたものが一人ある、下女が娼妓になつたのが一人、娼妓の着物が立派なのを見て羨やましいが爲に自分も、彼あ云ふ姿をしたいと云ふ虛榮心の爲に娼妓になつたと云ふものも一人ある。其他能く分からないのが四人ばかりある。次に娼妓になつた年齡を調べて見ましたが十八歳以上でなければ娼妓にはなれない規則であるに拘らず私の調べた二十五人の內には二人だけは年を胡魔化して十六七位で娼妓になつて居ることを發見した。而かも此十八から二十一歳と云ふ位の妙齡の年頃に娼妓となつて居るといふのは小さい時から酌婦になつたとか料理店に奉公にやられた者の外は大概兩親に離れた者が多い樣に見える。

次に其娼妓に就て年期を調べて見たのである。二十五人の內の十四人は六年の契約年限で、五年が一人、後の四人は判然しない。所で此十四人に就て調べて見ると十四人の前借金全部を合せて三千七百二十五圓になつて居る。之を平均すると一人前二百六十六圓餘の前借と云ふ事になつて、之を六年と云へば六つに割つて、一年に四十四圓三十錢ばかりになつて來る。四十四圓で一年と云へば大した金高でもない。一ケ月に割つて三圓幾らかになる。其三圓幾らかの借金のために一生浮ぶ瀨もない境遇に陷つて仕舞ふと云ふのであつて、再び遁る事が出來ない、かゝる境遇に囚はれて居るものが日本の國には五萬人近く居ると云ふのは、この點から考へたゞけでも見遁しにするとの出來ないとであると言はねばならぬ。

而して他は知らないが、東京邊では娼妓が客を取る每に手に入る金の半分は天引きに樓主が取つて、後の多くは——二十錢宛殘る、其內から又前借の利子を年一割二分を拂ふので其殘りを以て總ての自分の費用に當てるのであるから、幾ら稼いでも借金が殖えてゆくが決して減る道理がない、實に救ふべからざる憐れなる狀態に居るのである。

○情夫により苦痛を免れんとす

さて二十五人の娼妓の廢業をすると云ふ動機は何であるかと調べて見ると、其內の八人卽ち三分の一までは其情夫を慕ふ爲に廢業したと云ふ事實を發見したのである。救世軍や、慈愛館と云ふものは情夫を慕ふて廢業したものを救ふ所であるかと云ふお疑ひがあるかもしれぬが、彼等娼妓が朝から晩まで汚れたることのみを眼にし耳にして居る者に取つては實に其情夫を慕ふて其苦痛を免れやうとするより外に何等の考へもないのである。其他病氣のために廢業すると云ふのが二十五人の內六人あるのである。其他自分の前の夫を慕つた爲に廢業したものが一人、又自分のやつて居る商賣がいやになつた爲に廢業したのが二人ばかり居つた。

是れが今日私のやつて居る救世軍へ收容して東京の婦人ホーム へ引取つた。二十五人の、娼妓を廢したものゝ大體のお話であるが、日本全國にはまだ〳〵、これ以上の憐れむべき境遇に居るものが五萬人もあるのである。吾々の同胞が尙斯かる公娼の制度あるために、遁れがたき境遇に沈淪して居るのであることを見たならば、かゝる設備は一日も之を捨置くことは出來ないので、實に社會人道のために打破しなければならないのである。（十一月三日大阪支部の演說會にて）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

常識より見たる藝妓問題

指田和郎

公娼廢止問題に連れて藝妓問題が、近時漸く社會の注意を惹いて居る。私共の見る處を以てすれば、廢娼問題の根本的解決を得る時、即ち政府が公然賣淫を標榜する稼業を絶對に禁止するといふ方針が、嚴重に實施せられたる曉には、藝妓其他の私娼問題も亦、及を迎へて解決の緒に就くことゝ信ずる。從て順序として第一に來るものは公娼であり、藝妓其他は或意味に於て其後に來るべきものと心得て居る。

△

扨此に「常識より見たる藝妓問題」と題して、特に述べて見たいと思ふのは、現に藝妓問題の中心となつて居る藝妓の賣淫なるものが、寧ろ自然の趨勢であるといふ事、即ち或種の論者の所謂「藝妓は必要なり、但し藝妓をして眞に藝妓たらしめよ」といふことが、如何にも迂遠なる空論、議論の爲の議論であることを、自分は自分の流儀で述べて見たいと思ふ事である。然らば斯くいふ根據は何かといふに、先づ第一、男子の爲に杯盤の間を斡旋し、座興を幇助する職業的婦人の地位は、自ら危險に瀕し、又男子を危險に導くものである、ことを考へたい。此は少しく性の誘惑の何たるかを解して居る人ならば、此以上縷々の説明を要せずして直ちに首肯し得らるゝ、自明の理であらう。俗に「遠い樣でも近いは男女の間」といふ。是偏に兩性の接近する場合、往々にして意外の事實を生ずるを指摘したる警戒の語である。斯の如き場合僅に事なくして終らしむるものは、眞に活きて力ある宗教的信念か、然らずば不充分乍らも相互間に於ける尊敬と節制との念慮に待つの外はない。而も此種の危險は決して相愛の結果としてのみ來るものではなく、斯る場合に於ける性の牽引は眞實無垢の相愛と何等の關係もなき、全然一時的の發作なのである。果して然らば殊更に美裝して而も黄白の爲に媚を呈し、笑を獻ずる青春の女性が、飲酒の結果、然なきだに強くもあらぬ平常の自制力をさへ失ひたる男子の側に侍するに、其處に貞操上の恐るべき危險が伴はぬといふ理があるであらうか思へば斯く迄誘惑を生ずべき有ゆる條件を具備したる場合が復とあるであらうか。而も人の心思は、衆人稠坐の間にありても尚且孤獨なるを得べき奥妙不思議の機能を有するものなれば、危險の種の播かるゝことは、決して單獨に妓を聘する場合とのみ限らない。而して對手が職業的婦人なりとの一事は、男子をして黄白の力が其以上に及ぶべきを豫期せしめ、誘惑を拒絶するの力は再び其だけ削ぎ取らるゝ譯なのである。以上は重に客の側より見たのであるが、更に轉じて妓の側より見れば何うなるであらうか。

△

第二、經濟上の壓迫を擧げねばならぬ。先頃早稻田大學の平

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

沼教授が「藝娼亡國論」と題して論じられたる中に、東京に於ける第一流の藝妓の所得が、平均年三千圓にして、支出は活計費、交際費、税金其他の雜費を合せて二千四百圓、衣服費六百圓、車代三百圓、贈答費五百圓、合計三千八百圓、其他年始に新衣の調製を要することをいひて、其收支相償はざるの事實を指摘せられたが、之に由ても其收入の不足分を何處に求むるかは直ちに知り得らるゝのである。又先に女優森律子の歸朝談なりとして新聞紙上に發表せられたるものゝ中には、巴里の女優が何れも毎夜興業を終りたる後各々其所謂「後援者」即ち俗に謂ふ旦那なる者と自動車に同乘して茶屋又は旅館等に赴くとのことがあり、而して其理由としては彼の地の女優が、日本の其と異り舞臺の衣裳迄も自分持ちなるが爲人氣を博せんとすれば是非共如何なる算段でもして、人目を驚かす如き服裝を整へざる可らず、其には從て其に應ずる丈の收入を造らねばならぬといふことになるとのことである。是亦斯の種の職業的婦人が、其名稱の何たるに拘らず、早晩一種の私娼と成り下らずしては居れぬことを敎ふるものでなくてはならぬ。獨立の者既に然り、況んや抱主又は所謂親權者の爲に、非道の壓迫を受くるものに於てをや。内外の事情既に斯の如く、而も振分け髮の少時より、全然斯の如き空氣の中に養育せられたる憫むべき婦女が、徹頭徹尾よく其身を守りて、絕對に其貞操を汚されざる如きは、殆ど夢想だも爲し能はざることゝいはねばならぬ。經濟的の壓迫は斯くして彼等に墮落を强いるのである。

一〇

第三、最後に我等は藝妓も娼妓も要するに其根原は一なるを以て「藝妓の賣淫」を解釋したいと思ふ。

我等の見る所を以てするならば、藝妓は其起原に於て目的動機を娼妓と等しくして出で來りたるものであることを信ずる。遊廓の無き地に之を設置すれば、之に由て私娼の數を減少する所か、反て其激增を招くとは、既に各地の統計が之れを證し得て居る事實である。其初德川幕府は從來隱密の間に存在したる賣笑業者を一廓に集めて、集娼を公許した。其後約百年にして正德の頃より藝妓なる者が廓外に現出したといふ。是即ち德川政府の執りたる集娼公許の態度方針と、時勢の推移とが合して、散娼の發生を誘致したるものに外ならない。

是を以て之を見れば藝娼妓が何れも其源を一にして居ることは、實に火を睹るよりも明らかではないか。勿論或時代に於ては、藝妓が淫を鬻がざるを以て誇りとし、若くは其法とした事實がある。然も其現象が遊廓に附隨したる藝妓に最も著しきを見る時、之が藝娼妓間に於ける自己防衛の爲の分業的妥協より出でたるものに外ならざることを見出すに難くないのである。從て斯の種の妥協申合せは、何れか一方の勢力が他を壓する場合には、全く其效果を失ふに至るは固より當然である。遊廓の沈頽と藝妓の跋扈とは斯間の消息を語り得て餘あるではないか。

今の世に醜業を營まぬ藝妓の存在等を夢想してはならぬ。先づ公娼を撲滅せよ而して私娼を驅逐せよ。毫も假借する處ある勿れ。

輿論

妓問題

福井新聞

記者曰、本會が「藝妓問題」を提供してより、地方新聞にして之を論議したるものが少くない。今其中から左の一篇を抜いて參考に資す。

公娼廢止と云へる題目は宗教家、救世軍、社會改良論者等により隨分久しき以前より討論審議せられつゝあり、隨ふて娼妓の員數、免許地の箇所等は近來多少なりとも減少する傾向を示し來れるが此の公娼に對する密娼とも云ふべき藝妓問題は不思議にも今日まで何等の討究を經ざりしのみならず、社會は寧ろ此の藝妓を容認し奬勵し保護するの傾向ありて動もすれば良民と雜居するに任せ歐米の漫遊客の如きも嘖々として此の日本特有の藝妓を艶稱し此の藝妓ガールを見るてふ事を、その漫遊の目的の一に數へつゝありと云へり。然るに近時に至り救世軍、宗教家、社會改良論者等は娼妓の自由廢業幇助等に滿足せず、進むで藝妓問題を講究し解決せんと欲し、數日前藝妓問題大演説會を東京に開きて社會の視聽を聳動し、雜誌「廓清」の如きも特別號を發して大聲疾呼すると共に機敏なる「東京日々新聞」も亦特に「藝妓問題」なる一欄を設けて本問題の討究解決に貢獻する所あらんとするに至り藝妓問題は從來の廢娼運動と共に社會改良の一題目となり心ある人々の注意を惹かんとする傾向を示めせり

而して去る九月二十三日東京三田四國町の統一教會に於ける藝妓問題大演説會に先きだち名古屋の警察官憲が藝妓の健康診斷を勵行し、その統計を公表し藝妓の百中の三四十乃至五六十は花柳病の患者なりと報告したる一事の如きは蓋し最も社會の注意を喚起するに力ありしならんと信す。

此の前後に於て余輩は縣下武生町の大火に遭遇し、同町に於ける藝妓免許地及び娼妓免許地の全部が類燒の厄に罹りて烏有に歸したるを見、好機逸すべからずと爲し、從來の藝妓免許地は武生市街の目貫と稱せらるゝ商工業區と接續し藝娼妓は良家の子女と雜居する有樣あり所謂冶容怪婬、風俗を壞亂し子弟を蠱毒し奢侈遊惰を鼓吹する疑ひあるを以て此際たとひ藝娼妓を全廢する能はざるもセメてはその免許地を市街と隔離したる或る一地に移轉せしめよと唱道したるは蓋し偶然にも藝妓問題が從來の廢娼運動と共に社會改良の一題目となりたる最近思潮に觸れたるものなり。

おもふに藝娼妓の全廢てふことは社會改良論者の理想にして余輩も此の理想を可とし社會の實況が一日も早く此の理想に到達せんことを望むや切なりと雖も、而かも理想は一朝にして實現さるべきにあらず、之れに到達するまでには尚ほ幾多の階梯を歷ざるべからざるべきを以て、余輩は藝妓問題が社會改良の一題目となり多少有心人の視聽を聳動せしむるに至りし今日に於て、藝娼妓の免許地を市街と隔離せしむること、換言すれば良家の子女と雜居するを禁じ成るべく良家の若き子女の血をそゝる機會を少なくすること、及び娼妓と同じく藝妓の健康診斷を勵行すること等は、理想に到達せんとする第一階段にして是非とも縣當局の果斷を煩はす必要ありと唱へんと欲する也。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

論壇

人間の香ばしい薫り

・萬朝報記者　茅原華山

（一）自己を暴露して自己の實現を圖らればならぬ

此頃、平塚明子といふ人が『自分は女ではない、人間である』といふことを語つてゐる。女である前に先づ人間である事は、これは當り前の事である、處が此の當り前の事を、平塚さんが始めていふたとすれば、今迄の他の婦人達は恐く人間ぢやなかつたのだらう、人間でなくて女だつたのだ。人間でない女、それでは獸類の雌であらうか。

今日の婦人は、女自ら政談演説をする事は勿論、政治演説を聞く權利すらないのである。それを今迄誰一人、政治演説を聞く事を請願した者のない處を見ると、なる程女は、女自ら人間でないと信じてゐたのではないかと思はれる。

一體日本の女は餘りに Self Concealment（自己隱匿）に過ぎる、自覺したと稱する婦人達までが此傾向から罷脫する事が出來ない。斯ういふ風では到底自己を expode（爆發）する事は出來ぬ。自己隱匿ではない、自己の暴露があつて始めて自己の發展がある、婦人と雖自己の主張を徹底する爲に自己の主張を聞いて貰はなくてはならぬ。東洋では自己の隱匿を以て一の美德と心得てゐる、婦人にあつては殊にそれが著しく、就職をするにも『何も出來ませぬが使つて下さい』、といふ。何も出來ないなら使ひ途はない、『何々が出來るから使つて下さい』であらねばならぬ。男子の方は、生活難の爲に漸次減つて來たけれども、婦人がいつ迄も自ら匿し、自己を隱蔽して、自己の實現を圖り、自己の主張の徹底を庶幾する事がないならば、思想上にも政治上にも經濟上にも淘汰せられ、人間としての女が存在して行く事は益々覺束なくなる。

（二）日本の女價は世界で最も低廉なるものである

凡そ日本程物價の割合にパン（即ち飯）の高い國はない。二割五分といふ高い關稅が課せられる、實に經濟狀態から見て高價な國であるが、世界に又日本程女の廉價な國はない。始め私は西洋の文明を學んだ時に、何故東洋では女が高くないだらうと思つた。研究して見ると、西洋の文明は動的で、活動の爲め婦人の缺乏を生じ、女價が尊くなつた。日本は家族制度の國で、又農業國である、日本の文明は靜的文明である、これが其差違の原因であるが、近頃私は支那朝鮮地方を廻つて感じたのは、朝鮮や支那も等しく家族制度の國であり乍ら日本程女の價が低廉でない事である。日本は實に女價の低廉なる點は無類飛切である。支那や朝鮮では割合に女が大切にされてゐる、所謂內言は外に出さす、外言は內に入らずで案外支那は女の威張る國である。一方では妻妾同棲して敢て怪しまぬといふ奇觀を呈してゐるけれども、往來で婦人に戲

れるといふ様な事は斷じて出來ない、社會制裁のために途中では女に口を利く事も出來ないのである。よく、女を車に乘せて亭主が轅を振り乍らてく／＼その馬を追ふて行くのに出會すなどは、ちよつと日本に見られぬ風光である。

斯くの如く、女が東洋に於ては西洋よりも廉價で、就中日本が殊に低廉であるといふ事は何故であるか家族制度で農業國だからと云へばそれ迄なれど、特に日本が著しく輕蔑せられ下女視し奴隷扱せられるといふのは、それ以外に何か理由がないだらうか。私は彼地で日華懇親會にも臨んだが、支那の藝妓は日本の藝妓のやうに下司張つてゐない。朝鮮などでも妓生といふのが先づそれであるが、日本の藝妓のやうに卑屈ぢやない、悠々としてゐる『お酌しませう』などゝは云はない、昔の石山寺に、紫式部とか何式部とか云つたやうな坐り方をしてゐる。頼まなければ酌もしない。勿論これは支那も朝鮮も自覺的ではない、因襲的であるけれども、男子の下に好んで下らないといふ事が云へる、日本が、女は男より一段下に着くといふ習慣は何から來たか、これは實は日本の武士道、所謂、Militarism の餘弊である。

戰爭と婦人とは兩立しない、と云へるかどうかは別として日本武士道では兩立しないとした。新田義貞が尊氏追討の機を逸したのは勾當の内侍があつたからである。吉川元春（常春？）が家臣の中の態々一番醜い女を嫁つたのは、其家族が感激して身命を惜しまなくなるだらうといふにあつた。鹿兒島が強いのは女色を輕んじ男色を重んじた爲であるとしてゐる。又戰爭に行くにも、自分が討死すれば最愛の妻が他人に嫁すると思へば心殘りもするが、兩夫に見えずと髮でも切つて與れゝば死ぬにも死にいゝ譯である。日本婦人の地位の低いのは、家族制度の外に武士道を數ふる事を忘れてはならぬ

（三）生命内に緊張して暴露せざる處に人生の味がある

日本の女は無暗に彼あなれ、斯うなれといはれる、賢母良妻になれと責められる。人間は平塚明子一人である、人間以外の女がどうして良妻賢母になるか、又一方から見ても今日は既に良妻賢母の Over production（生産過剩）になつた。男で嫁を貰ひたい者よりも、女で行きたい者の方が遙に多い、男は生活の爲に鬪はなければならぬ世の中に、日本の女はまだ自ら食つて行けない。自存する事が出來ないのであるからなる程女の方が多い筈である。其結果選擇權は何れに歸するか、男子か、女子か、必然男子の掌中に歸した。

これ迄日本の婦人は世界で一番廉價であつたのに、此上まだ箱入にしようといふ教育は、呪ふ可きものである。我々は最早、今迄のやうな、好い女、美しい女、といふ丈で滿足して居られない。可愛いといふ事には、人格を認めてゐないのである、唯愛すべしではいけない。新しき男子は何處迄も自己の暴露、自己の實現、自己の徹底を圖らねばならぬ。從つて婦人も己れに共鳴する處のものでなければならぬ。今の多數の男が藝妓輩に戯れて喜んでゐるといふ事は、何といふ淺薄下劣な事であらう。如何に藝妓が美しくとも、何等共鳴する處がなくてはお話にならぬ。

西洋の女は怎麼下々の下でも、上々の上でも等しく生活の波に搖られてゐるから丸で違ふ。西洋では Love is bussiness（戀は商賣）である、戀と云へども Calculation（打算）をやらな

ければならぬ。天上の戀ではいけない。西洋では男が女に對する態度も違ふが、女が男に對する態度も違ふ、之は皆生活難の關係である。日本の婦人にも此生活難が襲ひ來りつゝある、これからは女と雖も自立自存を圖らねばならぬ。それには日本の婦人は Self Concealment (自己隱匿)の殼を破らなければいけない。けれども西洋は亦餘りに Self exposition(自己暴露)である、ヘーゲルやカント、近くばベルグソン、オイッケンでも言葉が譃きれば意も亦譃きる。東洋の書はすつかり表現しないで餘韻を存してゐる。畫を見てもさうである、話をさしてもさうである。表情に過ぎる、暴露に過ぎる。私の理想は生命が內に緊張してゐて、それを暴露しない處に人生の味があると思ふ。我日本にありては、男も女も先づ自己を暴露しなくてはならぬ。西洋の缺點は餘りに暴露に過ぎて餘韻がない、これは生活難の爲に趣味だの、含蓄だのと云つて居られぬからである。さうした餘裕がないからである。

《四》憧憬すべきは人間の香ばしい匂のする女だ

英國あたりで參政權運動の起るのは當然の事で、生活の波と戰つて、女が競爭して男を驅逐してゐる。租稅を拂ひ、獨立をしてゐるものが參政權を要求するのは誠に當然の事である。此婦人達と話をすると、婦人と話をしてゐるやうに思はれない、パンカースト女史などは丸で男子で、骨も太く腕も固い、卓を叩いて滔々婦人の權利を論せられると、全く肝の小い男を氣死せしむる許りである、動的文明の結果からした中性の人が出來たのであらうが、これが西洋の婦人のタイプかといふと大違ひである。

そんならどういふ者を私は理想の婦人とするかといふと、佛蘭西に行いた時、プロフェッサーのビジュンといふ人の奧さんに逢つたが、其應接の巧妙な、人の氣を見るに敏なる驚く可く、流石にベルグソンの樣な直覺の哲學の出た國だけあつて、痒い處に手が屆く、心持のいゝ婦人であつたが、まだ私の理想の婦人ではなかつた。獨逸に行つた時會つた某孃こそ實に理想的の婦人であつた、晩餐後色々話をすると、どうも女と思へない、畏れ多くて、冗談など云はうたつて出ないのである。だからこちらも自分を男と考へられぬ、人間だといふ事になる、男と女ではない、人間と人間、二人の人間が相對して語つてゐるのである。それでゐて、婦人は極優しい美しい、淑かな、物のよく分つた女で、其婦人から來る匂ひは、女の臭氣でなく、人間の香しい五香である。どうしたつて私も男では居られない、人間でなくてはならぬ。恐らくノ●ラはこんな婦人であつたらうと思つた。

日本の女によく見るチャーミングな女は西洋には全然ない此優しい生きた人形の樣なチャームは、一度び生活の風が吹き、荒めば跡もなく消えて了ふのである。こんなものはうたかたの夢に過ぎない。我々が憧憬すべきは人間の香しい匂のする女である。又生活の波が寄せて來ると中性的の者も出來やう、それは五千萬人もあるのだから中には毛色の變つた者も生れやう。さう心配するに及ばないが、然らば何處から女としての性格を失はない、人間としての眞の女が出やうか、それには上流の社會は餘りに生活に遠く、下層社會は餘りに近接してゐる。ノラの樣な人間の香しい匂ひのする女は、中等社會からのみ期待されるのである。(講演筆記文責記者)

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

新しき意味の良妻賢母

慶應義塾大學教授　向軍治

（一）イプセンは眞理の半面である

私はハイカラの事をいふのが大嫌ひ、極頑固な方である。それを世間ではハイカラ黨だなどゝ誤解して居る。中には社會主義だとか何だとか、當り前の者でないやうにいふ、けれども私は別に少しも變つた處はない、私から見れば世間の人が變つてゐらつしやるのである。

今日の婦人に對して、男子は如何なる事を要求してゐるかといふと、二十世紀的になつて貰ひたいといふことである。其意味は自然主義を盛にやつて道行でも奬勵するといふのでは勿論ない。婦人で參政權を得るやうになれといふのでもない、覺めたる良妻賢母、それを求めてゐるのである。

一體日本人はどうも學問が足らぬ、昔の人は割合にしたものであるが、悲しい哉讀む書物が惡い、漢書きりなかつたのである。書いてある事が碌なことはない。尤も道德上は中々偉い事がある。宗教の上からいふと孔子はなつてゐないけれども、身を修むる上からならば耶蘇や佛者以上に立派なものである。昔の人の讀む書物といふのは斯ういふものに限られてゐたのだから、世の中の事は全然分らない。そして書物になかつた自分の知らない處は皆誤りだといふ頑固な考へに陷つた。頑固論者の立脚點は學問が狹いからといふ事に歸する分らなければ分らないで居ればいゝのに、それ以外の事はハイカラだとか何だとかいふから困る。處が又一方にはこれと反對の方々がござる。此頃の人には馬鹿が澤山で、獨逸人なども多數は馬鹿である、歐羅巴や亞米利加の馬鹿がいふた文明社會の風潮を半噛りの學者が、自然主義などに贊成してゐる。イプセンなども碌なものではない、眞理の半面しか說いてはゐないのだ、半面は傳來の說を信じてゐたのだ、破壞論者の立脚點は悉く間違つては居らぬが、眞理だと思つてゐる中の半分は噓である。何も昔のものだからとて眞理でないことはない、四書五經にも立派な言葉がいくらもある「人焉んぞ瘦さんや、君子は一人を愼む」などゝいふ語は、今も、佛教も耶蘇教も追付かぬ。大體に於て宗教としては價値はないが、半面だけは立派で半面は噓である。頑固論者はこれを全面として取扱ふから困る、丁度これと同じに、イプセンの說く所は歐羅巴の古文明の半の間違を擧げたのである、彼の曰はなかつた所は古來の說が正しかつたのである、取り除けて見ると半分々々で丁度全くなる、それを半分と思はないで全面として考へるから、頑固論者と同一轍の馬鹿に陷つて了ふ

（二）能力よりする婦權論の謬見

新しがる婦人の一派、女權の擴張を論する西洋人の中にはさうした人達が甚だ多い、それを又半噛りする學者が日本にあるから困つたものだ。婦人でも戰爭だつて出來る、何でも

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

男のする事で出來ないことはない、女が出來ないのは多年男に壓迫せられて其能力を發揮せしめなかつたからだ。斯ういふ風に論ずる者が大分ゐる、けれども何でも出來るもの、といふことゝ、何でもすべきものとは意味が違ふ。斯ういふ人達は論理學を知らないのだ、婦人だつて何でも出來やう、けれども文明の程度では出來ない事がいくらもある。人間は昔魚であつたから、人間は本來さういふ性質を有つてゐる筈だだから魚であつた時代のやうに泳げとか、或は更にアメーバの昔に立返つて男に子を産めと云つたとて出來るものではない。發達した結果男と女との關係が生ずれば、もう男と女との職分は別れてゐる、手足にしてもさうである、獸の時代は足ばかりであつた、だから人間も手をついて歩けといふ樣な議論をする程の愚者はあるまい。アメーバの時代には手も足もなかつた。それから手があり足があり、眼があるやうになつた。眼も暗い洞穴中に棲んでゐる動物にはあべこべに退化してなくなつてゐるものもある、尻尾も人間には昔あつた跡が殘つてゐる。斯ういふ風に生活狀態によつて色々に變つて行くものである、眼がある以上は眼の働きがある、それを昔はないから今もないのがほんたう、などゝいふそんな馬鹿な議論があるものではない、歷史上與へられた以上は、變つたものとして扱はなければならぬ。婦人の能力論から男女の權利を論ずるが如きは、我々から見ると婦人問題の眞髓に觸れたものではない。問題の生命はそこでない、個性の覺醒といふ事であらねばならぬ。

女の能力をいふなら、從來女の專門になつてゐる裁縫ですら、ほんたうの仕立は男子でなくては駄目ではないか、義太夫でも呂昇が旨いの何のといつた處で、男の中に入れたら下手糞だ、音樂でも繪畫でも今日の女は男に及ばない、事實に於て女は男に劣つてゐる。東北大學へ女が三人這入つた、偉い女だ男優りだといふ、けれども一方に女の樣な男もある世の中である、何の不思議もありはしない、それはジャンダークの樣なものも巴御前の樣なものもたまにはある、私の母なども確に男優りであつた、併しそれだからとても女はやはり男に劣るといふ事を打破ることは出來ぬ。第一子を産む事が女に限られてある以上は、此生理的の相違は、またやがて心理的にも違ひがあらうといふ事は考へられ得る事ではないか

《三》第一に良妻たらざる可からず

けれども、だからと云つて女を下等のもの、くだらぬものと見るのはいかぬ。それは頑固論者の事である。又今に人間は足がなくなつて頭と手ばかりの時代が來るだらう、だから足など使はぬやうにしなくてはならぬといふ風の婦人論もいけない、やはり現在に立脚して一歩一歩進むのである、一足飛びになんてさういふ譯には行かぬ、先づ今日にありては、女は第一に良妻にならなければならぬ、第二に賢母にならなければならぬ。若し不幸にして子がなかつたら居眠りでもしませうか、それでは困る、其時こそ社會的に活動する餘裕が出來るであらう。妻は夫が死んだから、夫が居るものとして良妻の眞似をしませうか、そんな馬鹿なことはない、其時こそ社會的に向ふのである。

良妻賢母、既に文字は古びた、良妻賢母なら女大學流で出來るであらうかといふと今日はもういけない、女は下等で夫

の奴隷として勤める、そんな事では二十世紀の世の中には役に立たない、今日は女は世界を支配してゐるものである、戦爭などいふに足らぬ、女のお陰で男は其本分を盡せるのである、レブソン夫人は、夫婦は互に秀でた性質を有つてゐなくてはならぬ、といふてゐる、お互に尊敬する夫婦の間は、必ず淸く美はしい。

良妻の勤めといふことは、何も活動して大騒ぎするに限つたことはない、偉い婦人になると坐つた儘動かないで家の中が締つてゐる、良妻の勤めの第一は、體に於て夫に働をかけるよりも、精神に於て夫を感化する力である、夫が自分の心の中で、自分の女房に對して濟まぬと思はせる樣に仕向ける事が出來れば、もう良妻の勤めは出來てゐる、主人が放蕩する半分は細君の役に立たぬ點に責がある、女が動物でない、目覺めた人間になれば家庭は必ず圓滿に行くべき筈である。

（四）第二に賢母たる可し

子を育てる方はどうかといふと、我々は子孫によつて生きて行かなければならぬ、さうでないならば五十年の間にどれ丈の事も出來ない、棺を蓋ふて定まるといふが、消えて無くなつてはしやうがない。子供の敎育は實に大切な事である。

それを世間の奥さん方は、はい私の處では學校にやつてゐます、と濟まして居られる、だから不良少年が出來るのだ。子供に『私の阿母さんは辭書をひく事を知らないのよ』斯んな事を云はれるやうでは子供の敎育は駄目である、無學の母親と馬鹿にされては賢母の勤めの出來つこはない、子供の發達する二十歳迄は自ら敎育するだけの德性と智見とが必要である、それがあつてすら中々六ヶ敷い、鳩山春子夫人と云へば我國では最も子供の敎育に力を注がれた人である。殆んど德性も智見も餘る程具へて居られるから、日本人としての理想的敎育を施された。夫人の考では外界の惡い空氣に觸れさせてはいけないといふ處から、自轉車で學校に通はせた、學校とお父さんの法律事務所と自分の住居、此の三ヶ所以外には何處へも行く事も通る事もなく、敎育の方針としては隨分拔目がなかつた。高等學校の一年間は寄宿舍に入れねばならぬ制度になつてゐるから、夫人は文部省に行つて談判して居られる所に丁度自分が行き合せた事があつた。斯ういふ風にして育てられて居つたが、確か嫡子の一郎君であつたと思ふ何處へも嘗て出席された事はなかつたけれども、或時先生が高等師範に轉任されるといふので、外の事ではないからよからうと云はれて、始めて送別會に出席された事がある、場所は上野の櫻雲臺であつたが、一郎君始めて上野の高臺から市中を眺めて『やあ東京は廣いね』と云つたといふ事がある。餘程偉い敎育を施してもさういふ拔目が出來るから、萬全を期するといふことは人間業には六ヶ敷い、賢母の勤めは實に困難なものである。

（五）信仰の基礎に立て

私は自分が耶蘇敎だと云つて敢て耶蘇敎になれとは云はぬが、耶蘇なり佛敎なり、神道なり、人間は何か一つ信仰を有つてゐなければいかぬ。耶蘇敎の神樣の事は知らぬといふ人でも道理には支配されてゐる、物理學の力には支配されてゐる。或は人間の道德など愚な事かも知れぬ、人間互に尊敬す

るのも間違かも知れぬ、日月星辰の運行から考へて來ると人間などは地球の中の蛆同然で、人間の智慧とか、我等の働きも、すべて太陽があつてゝある、其點からいふと拍手打つて拜むのは尤もである、けれども唯物的に考へれば愚なやうだが、さうばかり見る人は、頭と頭と打つ突かる「あ痛ッ、失敬な」と怒る事は出來ない筈だ、物理の法則だと考へなければならぬ。怒るならばそれは心が支配してゐるからである、心が宇宙を支配してゐると見るか、物理の法則かの二つである。

孝經に、天の經なり地の義なり、人の道なりといふ事がある。耶蘇の道を以て天地を貫くといふと同じで、これは立派な宗教であるが、二十四孝だの忠臣藏だのは、いつでも當て箝まると思ふと大違ひ、寒中に筍など掘らせられて堪つたものではない、今日は自分から子供に要求するなら親からそれ丈のことをする必要がある、人間は何か一つつかまつてゐるものがなくては動搖する、確乎たる信仰の基礎の上に立つて自ら其子に智徳の範を垂れるのである。子供の感覺は極めて鋭く親兄弟のする事を見覺えるものである、家庭の中から間違つてゐると滿足な子供が出來やう筈はない。

（六）良妻賢母と幸福な日本婦人

良妻と、賢母と此二つの事が充分に出來ればそれで結構、もうそれ丈で外の事をする暇はない筈だ。けれども世の中には子のない人がある、夫に別れた人がある。さういふ人達は社會的に活動するがよからう。併しそれには豫め各人が獨立し得るやうな敎育を有つてゐなければ出來ない、少なくとも高等女學校以上の學問を有つてゐないと、私の阿母さんは辭書が引けぬ、外國語は丸で駄目よと云はれる事になる、私のいふ處は新しき意味に於ける良妻賢母である、唯男子の奴隷になれといふのではない。

それならば日本の婦人はいつ迄も斯くあるべきかといふとさうではない、經濟上の壓迫が加はつて來るとさうはいかぬ、今日はまだ婦人にとつては堯舜の時代である、獨逸あたりでは二十五以上でなくては結婚が出來ない。夫婦は互に財産の持ち寄りである、日本のやうに男の脛嚙りをするのは間違つてゐる、實に日木など幸福なものである、嫁に行くならあんな幸福な國に行きたいと云ふてゐる、親の財産をそつくり貰ふ・年をとると養つて貰へる、言語同斷である、良妻賢母でもなくては、財産も持つて來ず夫の脛に嚙りついてゐて男女同權など云へた義理ではないとも云へやう。

外國では小學校の先生は皆婦人である、男ではそんなことでは食つて行けない、比較的收入の少い働きは皆女である。彼等は皆生活の爲に奮鬪しなければならぬ。日本人の生活は實に無駄が多い、米などを食ふから脚氣などにもかゝる。其上毎日々々一軒々々悉く米を焚いたりするから女中も要る、實に贅澤な話である、麪麭屋から麪麭を配達するやうになれば茶碗を洗ふ位は主婦で結構、其上日本では貧乏ながら一軒々々家を有つてゐる、經濟上の壓迫が劇しくなるとても這麼馬鹿げた事は出來るものではない、歐米のそれのやうに大きな家の幾間かを借りて、賄をとつて食ふやうになる。さうすれば一軒々々臺所の必要もなくなる、從つて良妻賢母や社會的活動の範圍が變つて來る。（講演大要筆記文責記者にあり）

異性に對する理想

廓清會大阪支部委員　加藤直士

一

男女が互に要求し理想する所を異にする所以のものは、男女の性格に於て根本的に相違する所があるからである、男は自分の有せざる所の性格を女に見出し、女は自らの有せざる所の性格を男に發見する。かくて各々が心のうちに深く缺陷を感ずる所のものを、相互に滿足せんと欲するのである。男女兩性の性格の相違に就いては、古來東洋に於ても西洋に於ても多く論ぜられた。東洋の陰陽の思想の如き、西洋の積極消極二元説の如き、何れも男女の性の相對を以て宇宙の根本に横はる二個の反對の原理にまで歸したものである。

天地萬有に斯かる二個の反對性が存するとすれば、其萬有の冠冕とも見るべき人間には、此の顯象が最も著しく現はれるのは當然である。天地創造の始に當りエホバの神がアダムに向ひ「人獨あるは善からず」と宣ふてエバを造り其妻となし給ふたと有は、誠に意味深き物語である。陽ありて陰なく、積極ありて消極なき場合には、此世の中に物の調和と云ふものはなく、別けても有情の人生社會には進歩も幸福も決して有り得ないであらう、「人獨りあるは善からず」人間が唯だ男のみならば彼れの性格は完全なる發達を遂げることは出來ず、又唯だ女のみならば彼女の性格は永久に不完全たるを免れまい。男女相補ひ相助けて初めて圓滿なる人生と云ふものが成立する。

されば男女の性格は其高下優劣を論ずべきものではない。一方欠げて居る所は他の一方で丁度よく補はれることになつてゐるので、男女相合して始めて一人前の人間が出來ると云つてもよい。或人が人間は獨身の時は未だ三分の一で、結婚して三分の二となり、子供が出來て初めて三分の三となると云つたのは道理ある言である。げに男女は各々特殊の性質を持ち寄つて始めて人間と云ふ一世帶が持てるのである。

謂はゞ男女は分業的に人生と云ふものを組成してゐる。故に各々與へられて居る天職と使命を自覺して益々之を發達せしめるのが最も天意に合する所以である。但し人類として男女兩性に共通なる性質あるは言ふまでもないことである。併し此の共通部分を益々發達せしめる爲めには毫も自らの特性を沒却する必要がない。實は共通の人道を發揮すればするほど其特性は益々其光を放つことゝなる。

二

然らば男女の特性は如何。剛と柔、力と美、積極と消極、陽と陰、これらは抽象的に言ひ慣れて來た言葉である。

試みに今少し具體的に此點を考へて見れば、先づ體力に於て男子は女子に勝つてゐる。是れは婦人も喜んで證認する所であらう。次に智力である、此點に於ても概して女子は男子に匹敵し得ない。美術や文藝の方面でさへ、未だ婦人の沙翁なく婦人のラフアエルなく又婦人のベートウヴエンもないと云ふ事實丈けでも智力は男子の長所であると云つてよからう。次に道德の方面であるが、之は一樣に云ふことは出來ぬ。蓋し道德には剛柔の二方面があり、正義、公平、勇氣、信實等は男性的道德で、仁愛、忍耐、柔和、服從等は女性的道德である。正義を以て代表される諸々の德性と、仁愛を以て代表される夫等との間に、若しも高下の差別がないとすれば、男女の道德性は先づ以て五分五分のものと云ふべきであらう。最後に宗教的方面であるが、もし宗教に智的方面と情的方面とがあり、兩つながら宗教生活に必要なるものであるとすれば、男女の宗教生活は是

亦相伯仲するものと云ふべく、もし又宗教は智識よりも寧ろ情意の方に重きを置くものとすれば、女子の宗教的情操は遙かに男子のそれに勝つてゐる。女の宗教心は概して熱烈であり堅實である。一たび信仰を得れば容易に之を棄てることはない。古來の宗教史は婦人の信仰の如何に大なるかを示してゐる。別けても吾人は基督教に於ける婦人の位置の如何に重要であつたかを知る。基督の十二使徒の中には婦人はなかつた。併し終始一貫最も忠實にイエスに事へた弟子はペテロ、ヨハネ、ヤコブ等に非ずして寧ろ數人の婦人であつた。婦人の信仰は何時もイエスを驚嘆せしめた。婦人は一たびもイエスの叱責を受けたことがない。教會歷史を播いて最も美はしき殉教の事績は婦人によつて殘された。燦爛として輝く聖女の人格美は實に天上の星よりも清い。今日歐米の宗教界に於ても教會の中堅は寧ろ婦人であると云つても過言でない。表面には左程に現はれないが、傳道事業でも、慈善事業でも、婦人の勢力を除けば跡は索然たるものである。

三

何故に婦人は斯くの如く基督教に熱心である乎。是れには深い理由がなければならぬ。第一に基督教は男女を神の前に同等と認め、男尊女卑の弊風を一掃して、婦人の社會的位置を向上せしめるに最大の貢獻をなした宗教であるからである。併し之よりも更に深い理由がある。それは基督教の中に最もよく婦人の理想と要求を滿足せしめ得る或物が存するからで無ければならぬ。抑も婦人が男子に向つて要求する所の性格は何である乎。それは『男らしく優しい』と云ふ一語の中にこもつてゐると思ふ。柔を代表する婦人が剛を代表する男子に向つて、其の剛の徳性の發揮を望むは固より當然である。併し唯だ剛のみでは滿足せぬ、そこに優しい同情と愛とが無ければならぬ。男らしくして而も愛情濃かなる男子には、女は喜んで其身も魂も捧げるのである。所で、此の男らしき優しいとは結局犧牲の精神である。犧牲とは強い者が弱い者の爲めに盡すことである。而して此偉大なる犧牲の精神は最も完全圓滿にキリストの十字架に於て現はれたではないか。卽ち十字架は婦人の最も熱烈に要求する男らしき優しさの極度の發揮である。こゝに婦人の理想の心ゆくばかりなる滿足がある。

古今の偉大なる男子には美はしくも此の丈夫魂と犧牲の愛とが調和された。ワシントンは何故偉いか。獨立戰爭の勇將、米國最初の大統領たりし爲であるか。余は寧ろ彼れが一青年たりし時幼兒の溺るゝを救はん爲め激流の中に身を投じた其純愛の行爲に在ると思ふ。リンコルンは何故偉いか。彼の南北戰爭の勝利、幾百萬の奴隸解放の偉業よりも、寧ろ一匹の豚の兒が溝に落ちて苦んでゐるのを見過ごしにする能はず、禮裝を汚泥に染て、手を以て之を救ひ上げたと云ふ彼れの愛の精神に在ると思ふ。近頃評判のメーテルリンクが劇のモンナワンナは何故敵將プリンチヴルレの戀に落ちたか、名譽と地位とを彼女の爲めに弊履の如く棄てゝ顧みなかつた彼れの犧牲の愛に動かされたのではないか。倫理的には大なる非難があるが、愛の力の勝利を物語る點に於て眞に能く人情の機微に徹してゐるものである。

固より是れと彼れとは同日の論ではないが、主イエスが萬民の爲めに其身を十字架上に殺し給へる犧牲の愛の大精神には、千載の下世界の婦人をしてかのマグダラのマリヤの如く『ラボニ』と叫んで主の足を抱かずんば已まざらしめざるものである。

四

次に男子は何物を女子に要求する乎。之は前と反對に『女らしき強さ』であらねばならぬ。單に女らしき優さならばそれは重複語で意味をなさない。理想も道念も低い男子ならば

いざ知らず、苟くも人格ある男子ならば女子に向つて單に女々しき愛を要求しない。優美の衣につゝまれたる毅然たる精神、温かき愛情の奥にひそめる堅固なる德操、謙遜の態度を離れざる覺醒せる理性、是れらは現代の進歩せる男子の婦人に向つて要求して已ない所である。競爭場裡に奮闘する今日の男子は夫人の内助を要すること甚だ多い。内助とは家庭内の事を處理して其夫をして内顧の憂なからしめると云ふ如き消極的の意味ではない。もつと積極的の意味に於て夫の相談相手になると云ふ意味である。卽ち夫の心の内部に於ける助け手とならねばならぬ。これには愛情と理性と道義心とが充分に目醒めて居らねばならぬ。誘惑多き現代の社會に處して男子は切に力ある内助者を要する。複雜なる今日の社會に處して大丈夫も往々判斷に迷ふことがある。こゝに温かき愛情と醒めたる理性と堅固なる道念を有する婦人の力が最も必要である。今日以後の婦人は唯だ女らしき温かき丈けでは駄目である。しつかりしたる品性と穎智ある判斷力が伴はない女德の價値は畢竟零位である。唯だ飽まで記憶すべき一事は凡て此等の性格の中心點が愛でなければならぬと云ふ事である。是が男子の中心要求である。何時の世にも變らざる異性に對する男子の理想である。而して代々の基督教たる男子は此の女性に對する理想の圓滿完全なる實現を同じく主イエスの生涯と其死とに於て見出して居る。

五

げに基督教は最も完全なる程度に於て此人生の二大要求たる正義と仁愛との調和を此世に齎せる宗教である。而してイエスキリストは其生と死とに於て最も完全圓滿に此理想を實現具備し給ふた。

世には母に對する愛情ほど醇の醇なるものはない。母に對する愛は男子が女性に對して捧げ得る最高の崇拜である。女性の最も高尚なる性格は母に於て悉く現はれてをる。基督に於て神の母格を見出し得たる我等基督者に取りては、異性に對する理想の要求が圓滿に滿足される。我等は基督を仰ぎ見て、そこに久遠の女性の姿を見る、神の母格の榮光に接する。

斯く基督が男女の理想を一身に具備し給ひ、そこに異性に對する人類の要求が最も理想的に滿足せしめらると云ふ事は卽ち是れ基督が人類の模範、人道の權化其ものであると云ふ事を明示するもので、此人道の權化たる基督を理想として之を愛し、之を慕ひ、之に事ふるを以て、終世の目的とする男女基督者の中に、最も高潔なる異性の愛、相互の理想の滿足圓滿なる家庭の幸福が實現される筈のものである。聖オーガスチンの言へる如く、我等人間は神御自身の榮光の爲めに造られたものであるから、神に憩ひを見出すの外決して永久の平和を得られない。キリストに於て現はれたる神、こゝに人類のあらゆる理想の實現がある。吾人はそこに一切の渇仰憧憬の滿足を發見する。異性間相互の要求の如きも、結局は人道の圓滿なる發揮を目的とする人類靈性の向上運動である。されば世界の人類が基督を救主と仰ぐに至れば至るほど一切の社會問題の根本たる此男女兩性の問題は、立派に解決されるであらう。

（神戸女學校女子青年會に於ける講演の大意基督教世界より拔粹）

北滿州の醜業婦

△本田總領事の苦心

關東都督府囑託
大連慈惠病院理事　柴田博陽

▲內地人の夢想だに出來ぬ境遇

◎實に慘澹たる者は北滿州に散在して居る日本淫賣婦である。哈爾賓を中心として東は浦鹽斯德より西は滿洲里邊までの西伯利亞鐵道沿線に本邦の醜業婦がどれだけ居る事か知れぬ。而して此等の醜業婦により吾が國體はドレだけ損傷されて居る事かも知れぬ。自分は先頃少しく所要あり北滿洲を旅行して彼等の生活狀態を親しく視察して來たが、其光景の慘澹たる者であると同時に之れが救濟の必要を痛切に感じた。

◎此等の婦人は多くは九州地方よりの出稼ぎ者であるが、其逆に郷里を出づる當時は斯く迄悲慘なる境遇に沈淪するとは豫想しなかつたであらう。現に滿洲の奥地には、內地人の夢にも想像の出來ぬ悲慘の境遇に陷いり慈哀の涙に暮れて居る幾多の婦人があるか知れぬ。彼等は最初郷里を出づる時には、海外の生活に憧れ榮華を夢みて迂濶に飛び出したる者で、謂はゞ虛榮に囚はれたる自業自得であるから已むを得ないが、兎に角悲慘なるものである。

▲奥へ奥へ

◎十六七から二十二三の若い身空で何うして曠漠たる滿洲の奥地に這入り込んだかと尋ねて見ると何れも豺狼の如き惡漢共に誘拐され甘言以て段々と連れ込まれたのであると言つて居る。成程彼等とて最初より斯かる地方に往く氣ではなかつたらう。大連か奉天邊で稼ぐ積りで來た者であらうが、一度縛られた運命の糸に引付られて借金に借金が重なり、景氣が好いと云ふ甘い言葉に欺かれ奥へ奥へと段々と流れ込んで行つたのである。

◎奥地に於て彼等は何うして居るかと云ふに支那家屋とも付かず、露西亞家屋とも付かず、果は日本家屋とも付かぬ一種特別なる構造の家屋に十人二十人或は三十人と云ふ一群が一種異樣なる洋裝して露西亞人や支那人を相手に淫を鬻いで居る、而かも其露西亞人や支那人の大部分は下級勞働者か苦力共で宛ら乞食の樣な顏觸である、吾等同胞の婦人中には僅か壹貳圓の金錢を以て、斯くの如き劣等の外人共に婦德を汚さして居るものがある實に國家の恥辱でないか。

▲犬か猫のやうに振り捨てられ

◎中には露人や支那人の爲に甘んじて妾となつて居るものがある。勿論妾であるから外人共の淫慾を滿たすために弄ばれて居る奴隷となるのである。夫れであるから若い內は兎も角少しく色香が褪せて來ると忽ち愛想を盡して女獨りを殘し置き何處ともなく逃げ去つて了ふ、現に置き捨てにされ後悔の涙に咽んで居るものが幾らもある。

◎殊に多いのは病人である。氣候の爲めか肺病に罹る者が多い、次は梅毒患者である。此んな病氣に罹ると露人も支那人

も犬か猫のやうに振り捨て少しも顧みない。遠く故郷を離れて滿洲の奥地に來たり、誰一人として同情する者もなければ看護する者もないから所謂彼等は野倒れ人となつて無限の恨を呑み異郷の土となるのである。何と悲慘なる末路でないか

▲今更歸るに歸られぬ

◎尤も支那人の妻となり、純然たる支那人化して生涯を滿洲に送らんと覺悟して居る婦人も大分多い。此等の婦人は何れも荒屋に生活し粗食に甘んじて居るが、彼等とて郷里を忘れて居るのではない。勿論郷里も戀しく、親も兄弟も懐しいと思つて居る。併し今更歸るに歸れぬ境遇に陷り、進退谷まり是非もなく朝な夕なに東の空を望んで空しく身の薄命を泣いて居る始末である。斯くて煩悶の結果、精神病者となり、遂には支那人に捨てられ吾が官憲の厄介となり、大連の慈惠病院に送り込まれる者も尠なくない。

◎實際其通り北滿洲に於ける日本婦人の悲慘なる出來事は筆紙に盡されぬ。然るに之が救濟問題に注意を拂ふ者がないとは實に遺憾千萬である。中には殖民地に於ける醜業婦は、殖民地開拓の先驅者である抔と稱して彼等を推賞する人々もあるが實に天下の奇論である。世の智者は何とかして一日も早く救濟の方法を講じて貰ひたい者である。

◎藝妓問題大演說會

▲第一回は九月二十四日芝三田統一敎會に於て開いた。六時開會といふに定刻前既に滿員の盛況を呈し、遂には壇下に迫まり場外に溢れ空しく引返すものさへ少くなかつた。辯士は高島米峰、益富政助、内ヶ崎作三郎、山室軍平、平沼淑郎、安部磯雄の諸氏で、其講演は「藝妓問題」號に於て既に讀者の知らるゝ處であるが、會衆に深き感動を與へ、滯在中のサンダーランド博士の如きは喜びに堪へず立つて一場の挨拶をなし、本會に入會せられた。其他當夜即時入會者五十餘名を算し喝采裡に十時半閉會。

▲第二回は本月十三日午後五時半、神田青年會館に開いた。今回は會場の費用廣告料等を支辨する必要上、止むなく入場料を徴した上、寒氣と雨あがりとの爲め如何あらんかと心配したが、廣い同館もやはり滿場の盛況を見、會員二百數十名の外に四百餘名の來會者ありて、二十圓餘の收入あり略支出を償ふ事が出來た。辯士は益富政助、高島米峰、高崎介藏、内ヶ崎作三郎、山室軍平、宮田脩、向軍治の諸氏であつた。講演の内容は次號より引續き掲載の筈であるが、これによつて、少くとも藝妓を一の問題として、人々が考へるやうになつたといふ事だけは確に云ひ得る事を喜ぶものである。當日の入會者三十一名、閉會十一時。

▲本多總領事と取締

◎處が吾人の大に意を強ふしたる一事がある、それは哈爾賓に於て總領事本多熊太郎氏を訪問し、氏と共に醜業婦問題に就て談話を交換せしところ、同總領事は、この問題に就て大に研究して居た事である。聞けば氏は哈爾賓に赴任以來、彼等に對する救濟問題に就て、種々樣々と苦心し、漸次改良の方針を執つて居る相だ。昨今は大連に來り、救世軍の經營する婦人ホームを態々親察した事もある程で、同領事の熱心なるは實に意外であつた。一は國家の體面上放任しておく事が出來ぬからでもあらうが、人道問題としても放任して置く事が出來ぬ。

◎夫れが爲か知らぬが哈爾賓地方に於ける醜業婦の取締りは漸く嚴重になつて來た樣であるが、北滿洲一面に於ける彼等の跋扈を抑制し日々に生ずる幾多の悲劇を一掃するは容易の事ではないと思ふ。社會問題に注意する世の識者に對して切に一顧を望むと同時に本多總領事の健康を祈るものである。

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

南洋名物の醜業婦

任馬來半島　藤田天民

○高い處では喜馬拉耶の山腹、廣い處では西比利の原野、日本醜業婦が到らぬ地はない、けれどもジヤパニース、ムスメの名が世界に轟き、新刊英語字典の中に載せらるゝまでに至つたのは、歐亞の通路世界の公道たる南洋諸港に陣取つて、黑白の人種萬國の旅客を相手に公々然醜業を營むからであらう。

彼女等は和漢洋折衷、那處にも類のない一種異樣の服裝（猿芝居のお姫さま）をなし、筆太に番號を記した樓下に椅子を列べ、英語馬來語打交せて行人を呼ぶさま奇異とも醜怪とも形容する辭がない私娼密賣なら左ほど目立つまいけれど是はレジスタードと云ひ、ライセンスドと云ひ、官許の公娼、しかも最も繁華な街衢に開業してゐるのだから堪まらない。

彼等は支那人が常得意、白色人にも商へば印度馬來人にも賣る、原産地は九州方面、長崎天草が本場、バツテンでなければ幅がきかぬ、近年密航取締勵行とあつて、補充途絶え、老婆ばかりかと思の外、いづれも妙齡の女子、十五六歲と見ゆる者も少くないとのこと、是はチヨツト不思議なやうで不思議にあらずだ、香港行新嘉坡行と云へば、旅行劵も必要、其筋の注目も嚴しいが、支那行と稱すれば、餘り六ケしくない、（上海にも漢口にも日本茶館閉鎖以來醜業婦なし）であるから堂々と上海行の切符を買ひ郵船會社の歐洲行メールに乘込み揚子江の下流か吳淞あたりで我敵は本能寺と出掛け、船賃を繼續せば那處へでも自由である、現に先頃の郵船にも七八名の女客は確にソレと見えたが果して新嘉坡に着くと忽ち買手が現れ其中の二女一名六七百圓に賣買調談、四十ばかりの引率婆が十圓札百餘枚帶に挾んで歸東したと云ふ。

殘りはピーナン、コーラ、シボー其他の方面の紹介者に賣渡されたであらう、發船諸港の水上署は脱りがない、殊に門司警察なんど警部巡査七八名も劍帽を緊握しながら、船内限なく捜査を行ふが炭庫水槽さては暗き艙底に匿れて密航するのは古手な方法、今では最も合法的手段を取り、警察官がノースの尖を掠て平然たるものである。

○此種の密航婦ではない公航婦も大抵皆欺かれて父母の國を去るので、羅漢相手の辛い勤め、サゾ泣いて暮すだらう、救濟せではと義侠心を動かす日本人士も多いが、其内情に立入ると島原五島あたりあらくれ漁夫の女子、神經の敏鈍を較べたら、羊豚に勝るだけの程度、羞恥の念など微塵もなく。ドンナ艱難に會ふも無感覺、南洋へは何にしに來たかと問へば憚る所もなく答へるのだから身代金はスツカリ輸出商が着服し、己は六七百圓の借金を背負はされても平氣な顏してゐる。

流石に英國統治の下にある殖民地、自由廢業は勝手次第、一たび警察署に出で其旨を屆けると幾分の借金があつても卽時許可され、次の便船で日本へ送還される、駈落も十分な便宜がある、船の出帆間際に乘込んで仕舞へば、蘭領諸島は勿論香港でも非律賓でも思ふ儘に行かれるであるから寢卷と借金とを樓主へ置土産としてサヨナラを喰はす者も全くないではないが、是は至つて少い。到る處開業は出來る、前借も出來る戶籍だ父母の承諾だ、就業の事由だ、身元の調査だとかいふやうな面倒もなく、頂天立地、頗

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

る自由であるけれども、彼女等は存外正直で樓主に迷惑をかけるに忍びずといふ處から、海外漂浪の無賴漢に勸誘されても容易に應じない相な。

○

また日本ムスメが軒を連ぬる西洋支那の同業者と競爭して優勝の地位を立つのは一の特色があるからである、洋娼は概ね皆歐亞の港々を押廻した下等のスレツカラシ、其手腕も極て辛辣網にかかつた客があれば、法外高價な酒を強ゆる果は懷中に手を差込んで有るだけの貨幣を取上げるポケツトを空虛にするまではイツカナ放免せぬ、戸外には骨格の逞しい印度人が請願巡査然と立番して、グズ／＼いふ客は腕力で突き出すポリスに訴へても笑つて取合はぬ支那娼婦は柔和な代りに枕捜しを遣る癖がある、左なくとも信用は置けぬ、日本ムスメは獨り此點だけ安心だ、如何に醉拂つて前後不覺な客でも、よく介抱して携帶品はチヤンと保管する、三十弗五十弗入れた財布を投出したまゝ眠つても、十仙一個も紛失しない、盗む意がないのか夫れとも盗む術を知らぬのか、おあづけの菓子はカメも喰はぬと一般、習慣性をなしたものであらう、是は日本ムスメの眞賓として、ドランカー共の珍重する所だと聞く、此等幾千のムスメにも自ら現役の年限があつて、滿期が來ると新陳代謝する、其豫備後備は何となるか、サント貯金して故郷に錦を飾る者は千百の一、十中八九は多少親元へ送金するのが關の山、追々贅澤に慣れ柄にない三十圓五十圓の綢珍を腰に纏ふ、何年稼いでも金は殘らぬ、其中容貌の人並なのは在留邦人の妻となるラシヤメンは上等の部、多數は支那人馬來人に連添ひチヤン／＼や褐色兒を產む、實に哀れなものである。

○

先頃瓜哇蘇答臘蘭領一帶の諸島では日本醜業婦の營業を禁止し、去八月末までに廢業せよとの嚴命を下した、數千のムスメが職業を失つて狼狽したのは勿論、今後日本の雜貨輸出に對する一大打擊であらうと觀察する者もある、醜業禁止その動機が那邊に在るかは知れぬが、此事ばかりは體面上抗議もなるまい、常に國權伸張を呼號する論客も外務省當局に迫つて、蘭政府の反省を要求せよとは主張しまい。

○

桎梏が圖らず橫徑に入つた、營業を差止められたムスメたちは今後ドウなるだらう、既に一部は瓜哇から引揚げて半島に來つたさうだが、新嘉坡でも彼南でも近頃此業メツキリ衰色を呈し、幾んど供給が需要の外に溢れる狀態であるから、迚も蘭領放逐の同業者を包容することはできない蘭領の中でも小市街或は田舍に居る者は其まゝ留まつて私娼に變ずることもあるらしい、又此を好機會として土人或は支那人の容筋に縋り異種の新家庭を作る者もあらう。

○

南洋で醜業の繁昌する處は濠洲寄りの諸島中にも眞珠採取場である、一ケ月の揚高五六百弗に達する者は珍らしくない、其他の地方は大抵百弗から百五十弗見當、新嘉坡あたりでは一ケ月百五十弗以上稼いだ者には樓主から懸賞を與へる制度を立てゝゐるさうだ、全體の數は何人ゐるか知らぬけれど、今五千人と假定し、最低度の稼高一年千弗とすれば、合計五百萬弗に上る、此金額がスツクリ內地へ送金されるなら祖國一大都會の市稅を免除するに足るだけあるが、彼女等は前後の思慮なく浪費して仕舞ひ父母の元へ送るのは十分の一もあるまい、縱令百萬弗の貨幣が此途に依つて流入するとしても國家經濟の上には九牛の一毛である、之が爲めに帝國の品位に關することは淺からぬ。

しかし密航の取締を嚴にし、無理に海外醜業婦を撲滅した處で何にもならない吉原が世界に轟いた日本名物の一である限り、南洋諸島の出稼何かある、頑固な政治家、固陋な學者が口に筆に世界無比の國體を叫び、德義萬國に冠絕すと呼んでも、南洋在留の日本男子のさまを目擊しては外客が殘念ながら尊敬の念を起すまいと思はれる。（東京日日）

凡て人たらんとする欲求

東京帝國大學助教授　文學士　大島政德

△兒童の遊戲三昧と其意義

子供の生活は、如何にも濫費的、浪費的に見える、儉約論者から見るならば實にどうも損なやうな、無駄なやうな生活をしてゐる。男の子ならサーベルをさして大將か何かの眞似をしてゐる。其麽事をするよりか、商人の子なら算盤でもはぢいてゐたらよさゝうなものだ。或は電車の車掌から、車挽、馬の眞似までやつてゐる。歩くにも眞直に行かず、無暗と道草ばかり食つてゐる、如何にも徒勞である冗らないやうである。女の子ならまゝ事をやる、枕なんど擔いで赤ん坊を負つた氣になつてゐる。如何にも浪費的な遊戲の生活で、實用的でないやうだ。

けれども其處に深遠な意味が存するのである。流行のベルグソンは、根元的動力ともいふ可きものがあつて、爆發して四方に散亂する、そしてそれが動物といふ方向を取れば動物になり、植物といふ方向を取つて植物になつたりする、其動物の中にも、人間であるとか猿、鳥、魚、色々に分れて生ずるものであると云つてゐるが、子供にはこの根元的動力が非常に旺盛に働いてゐるのである。

△枕を負ふ少女の心理

子供がサアベルをさして大將の眞似をしてゐるのは、そこに大將としての氣分を味つてゐるのである。或は枕を抱いて母としての心持を稽古してゐるのである即ち彼の未來は如何なる方面に如何なる處迄進んで行けるかを試してゐるのである。彼の遊びは、遊びにあらずして實は試みなのである。彼等の芝居が何處迄打てるかを試みてゐるのである。それには模倣的とか本能的とか心理學上の名稱がついてゐやうが、要するに無駄のやうな彼等の生活は、其實根元的動力を活動して、人格的內容を大きくし、豐富ならしめてゐるものである。

子供や少年の生活が遊戲三昧の生活であるのは、若き血潮が右往左往に活動して殖えつゝあるのだから、遊ばざらんとするも遊ばざるを得ないのである。それを抑壓してあゝしてはいけない、斯うしてはいけないといふ風にするのは、實にその人格的內容を貧弱ならしめるものである。能力の發達を阻宜するものである。

△うんと怒鳴つて見るが好い

今度はも少し長じたる形に於てお話をすると、我々の精神も亦根元的動力が土臺として、色々な方面に人としての完成を得んが爲に活いてゐる。青年時代といふものはあらゆる人になりたいのである私は青年時代を名けて「すべて人たらんとする要求」を有つてゐる時代であるといひたいと思ふ。

軍人の華やかな姿を見れば軍人になりたい、政治家の堂々たる演說を聞けば政治家になりたい、或は大金持になりたい文學に通じたい、と誠に多情多感である。如何なる方面にも自己の進路を試みんとする要求があるのである。職業的生活になるとさうはいかぬが、學生時代は其精神的能力をあらゆる方面に發達させる

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

がいゝ。政治家になりたいと思つたら其方を研究して見るがいゝ、軍人になりたいと思つたら其方を研究して見るがいゝ大飯を食ひたいと思つたら、食へる丈食つて見るがいゝ、大きな聲を出したいと思つたら、うんと思ひ切つて怒鳴つて見るがいゝ、演說、擊劍、柔道、すべて不正の事でない限り、何處迄自分の興味が行くかを計つて見るがいゝ、之は人格的內容の深さを致すことである、而して又その廣さを致す事である。

△芝居を行つて居る內に適役が有る

此點から私は、餘り小さい時から職業的の學校に入れる事に贊成する事が出來ぬ。何故かなら、そは「すべて人たらんとする欲求」を滿足せしむるに不適當であるからである。英國は所謂「敎育の廣き基礎を與へる」のである。而して紳士としての基礎を全からしめるのであるイートンの學校の誇りはそこにある。

青年時代といふものは、言々句々熱情が迸つてゐる、其の思ふことは沸くが如く燃ゆるが如くである。彼は實に空想家である。他の言葉を以て云へば、彼は心の中で常に芝居をやつてゐる、彼は其心の中で文學者になつて見たり、宗敎家になつて見たり、實業家になつて見たりしてゐる、さうして彼はそのうち自己の適役を見出すのである。

この內在せる精神力は、少年より青年に通じ猛烈にあらゆる方面に要求が出て來るのである、人の親たる者、敎育の任にある者は、將來の職業と直接的關係なしとして妄りに抑壓する事なく、精神的要求の聲に耳を傾けなければならぬ。人は大學卒業時代よりは、中學卒業時代から高等學校時代に、略其人の人格的の大きさが定まるものである。夫は何處迄人たらんとする欲求を使つて見たかにあるけれども更に又注意を要するのは、うゝつかりすると徒に心の消費に陷る事である無暗と使つた丈では一向要領を得ないそこにはやはり一の中心點を把持しなければならぬ。子供が步いてゐるのを見ると如何にも危ぶなさうであるが、中々落ちない、重心力がある。少年時代は非常に妄想的空想的であるから、其間にバランスは取つて行かなければならぬ。そして心の統一といふ事をやつて行かねばならぬ。そして精神的の經濟が行はれるそれには自覺といふものが伴つてほんとうの道が開けるのである。

△財布の少年時と老年時代

學生は誰しも一月に一度懷が溫かになる、そして其財布に少年時代と老年時代といふものが出來る。親から送られたその根元的動力は、袋の口をはちきりさうな強い處の欲求を有つてゐる。

これを三十日に割り當てゝ、一日に幾何程づゝ費ふなどゝいふ樣なやり方は、眞理に反する。ケチな者は使へたつて使へないが、財布の少年時代は、私は食ひたかつたらうんと食へといふのである。買ひたい物があつたら思ひ切つて買ふがいゝ、不正でない限り、やりたい事をやつて見るがいゝ、何でも要求を充して見るがいゝ、そして財布の範圍――人格的內容――を偉大にするのである。處があまり無暗な事をして、曩に述べた所謂中心點を忘れると、忽ち財布の老年時代が來て、果ては月末迄間に合はす、更にもう一度父親の動力を願つて、新に財布の少年時代にして貰はねばならぬ。之は人間にして云へば、もう一遍生れ變らねば駄目だといふ事である。けれども悲しい哉人間はそんな譯には行かぬ。(講演筆記文責記者)

不良少年と家庭

警視廳　山本捜査係長(談)

昨夏以來、我國には「不良少年」といふ問題が新しく起つた。勿論當局者に取つては突發的の事件ではなかつたらう、併し世間から云ふならば、警視廳といふ醫師によつて、新しい社會病が始めて紹介せられ、吃驚仰天したと云つたやうな譯であつた。

生活の壓迫と、劣惡な外國より來る道德的感化から生ずる惡少年でなく中と上流の家庭から「不良少年」が來るといふ事は容易ならぬ一大社會問題として、大分研究されるやうになつて來た。

つい先達ての、某會社理事の子息が、他へ渡すべき金子を費消し、四十餘日を漂泊の果て巧なる嘘僞を申し立て、世間を騷がした事件の如きは、良家の子弟で而も僅に十二歲の少年であつたことは、實に驚歎するのである、之に就て警視廳山本捜査係長の談を聞くに。

▲事實は一層恐る可きものがある

犠牲といふ事は喜ぶべきことではないか、今回の事は各家庭に好い手本を示したものであらうと思ふ。併し事實はまだ／＼もつと甚しい者がある、現に今年警視廳で捕へた一少年の如きは、同じく十二歲であつて一層幸福なるべき家庭に生れ、六十三ヶ所に於て最も巧妙な詐欺を働いてゐる、實に寒心すべき者である。

元來この不良少年は明治の特產物ではなく、德川時代の記錄を見ても殆ど數へ切れない程で、唯物質物の進步、換言すれは虛榮心の發達から此傾向か益々顯著になつたのである。而して最も多く不良少年の輩出を見たのは明治三十七年以降のことである。

警視廳では既に其十年前、二十七八年頃から此方面の係りを設け、現今は主任以下六人の係り員があり、また各署に於ても一二名位は必ずある。然し不良少年は之を防止する事は全然不可能で、又單に壓迫する如きも却つて助長させる因に過ぎないから、自分は以前から世の教育者や宗教家に向つて自覺を促してゐるのであるが、不良少年を作る處の最大原因が、現社會其物であるから止を得ない。

▲家庭の注意を望む

昨年の七月二十日には、當人の訓誡と社會の覺醒を目的として大々的檢擧を行ひ、其結果二百五十六人といふ數を示したが、兩親の庇護によつて公にされないものは數限りなく、且つ此の中には百二十名の少女が居た。

外國などでも不良少年の横行は凄しいものがあるけれども、既に防止方法も講ぜられ、英獨兩國などは大分良い方に向つて來た。不良少年の原因としては、第一に自發的卽ち先天的に斯うした素質を有する者と、第二に他の誘惑から來るもの、第三に社會の惡感化の種類があつてこれには雜誌、新聞、活動、酒、女等惡感化を及ぼすものは擧げ來れば際限がない。更に他の一大原因は家庭教育の不完全であつて、今回の事件の如きも大分これに原因してゐるらしい。

この家庭教育といふ點から見ると、日本人の家庭は殆んど健全であるかどうか疑ひなきを得ない。不健全な家庭に滿足な家庭教育があらう筈はない。子女に對しては先づ自ら範を示さなければならぬ。そして嚴に流れず、寛に過ぎず、巧みに調子を取る事である、自ら愛に溺れることなく、子供をして己れの愛に引き着ける事と、昔と今とは子供の頭の發達の度が違ふ事とに注意を要する。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

盲目的愛と國民性

大阪夕陽丘高等女學校長廓清會贊助員　伊賀駒吉郎

△婦人の美點は何處にあるか

一體人間の「愛」といふものは、盲目的になり易いものである、どうも世間には「愛に溺れる」人が甚だ多い樣である。例へば子供を愛する餘りに、阿母さんは子供が善い事をしやうと惡い事をしやうと其麼事にはお構ひなく、たゞ無差別に可愛がるといふ方がある。斯ういふ愛は決して益に立つ處の愛ではない、眞に愛する所以の道ではないのである。

抑々婦人の長所といふものは那邊にあるかと云つたならば、温い愛を有つて居ること、感情の優しいといふ點である。即ち感情の優しいといふことは婦人に取つて最も大切な點であるが、併し乍ら優しい感情の琴線が高鳴りして流れ出づる其の美はしい愛なるものは、一時性であつて刧久的でないのである。これには日本の國民性の關係があることゝ思ふ。

△秀吉と家康と何方が豪い

ちよつと生きた例を以て申せば私の學校で生徒に種々なことを書かして見た中に、斯ういふ題があつた。古來の英雄豪傑十何名かの名を書いて、例へば源義經とか、賴朝とか、秀吉とか、家康とかいふ人の中で、二三人一番豪い、氣に適つた人を言つて見よといつて書かせた。其統計によると、源義經の方が豪い好きだといふ者が百八十一人、賴朝が豪い好きだといふ者は七人、百八十一人と七人といふ甚しい差があつた、又一方にそれとよく似て居るものは秀吉と家康で、秀吉が好きだといふものが二百五十五人で一番多數であつた。家康の方が豪い好きだといふものが二十七人であつた。

私は此統計を一寸見て直ぐに思ひ浮んだ事がある、それは何であるかといふに日本人の特性を現はしてゐるといふ事である。義經とか秀吉とかいふ人は何方かといふと極感情の麗しい人である、理性の人といふよりは寧ろ感情の極麗しい人である。然るに日本人といふものを省みると、大變に物に感動し易い國民である、外國人からでも褒められると、直に上つ調子になるが、少し貶されると忽ち萎れて了う。如何にも神經過敏の人種である、褒めると滅茶苦茶に喜び、貶せば無暗に沈む、激しい感受性を有するといふことは、確に日本民族の一大特性であつて、茲に長所があり、茲に短所が存する

敷島の大和心を人問はゞ
朝日に匂ふ山櫻花

といふ宣長の歌は確に日本人の心意氣を道破した歌である。「朝日に匂ふ山櫻花」の樣に誠に其感情が麗しい、假へば外國と戰爭でもするといふ時は、其勢宛ら噴火山の爆發した樣である、常に黨を樹て異を爭ふてゐた政治家も、いざ鎌倉となると忽ち全會一致を以て戰費の豫算を協贊するのである。此點は實に日本人特有の立派な性質で、一旦緩急ある時は大變に都合のいゝ國民性である。

△感激性の長所と短所

ところが物には利害がある、長所の陰には短所が潜んでゐる。短所とは何であるか、感激性といふものは一時的のものであるといふ點である、強い感激性は恰

も噴火山のやうなもので、決して永い間持続するものではないのである。斯ういふ日本人の特性は、やがて又自己を擴充した人格自分の理想を體現した樣な偉人を好むといふ事になるのは當然の事である。感激性の人は感激性の英雄が其胸に共鳴して、理性的の豪傑を排斥することになるのである。即ち賴朝と義經と云へば十中九人迄は義經黨であらう、秀吉と家康と云へば大部分は秀吉黨であらうと思ふ。之れは必ずしも大阪ばかりではない、日本人の感激性といふものが自然さういふ統計を表したに過ぎないのである。

さて茲に我々の留意すべき事は、なる程吾々も一般に義經の方が好きなやうな氣持がする、賴朝は何んだか厭だと思ふ。去り乍ら最後の勝利は何方が得たかといふことを考へなければならぬ。世の中に立つて行くには、たゞ「朝日に匂ふ山櫻花」でぱつと綺麗であるばかりではいけない、必ず其結果が立派な果を結ばなければならぬ。即ち最後の勝利を得る所のものでなければならぬ。義經は實に古今の名將であつて、平家の討滅は彼の力であつた。けれども最後の勝利は賴朝のものであつた。秀吉は實に不世出の英雄で大明迄も震撼せしめた程であるが、彼の一度死するや坏土未だ冷かならざるに、天下は靡然として家康の手に歸したのみならず、德川氏は十五代の久しき兒孫の昌榮を見たのである。何が故にしかく兩者の間に大なる徑庭があつたか、即ち義經と秀吉は、共に最も感激性に富んだ人であつた。であるから國民に褒められるには大變都合がいゝが、最後の勝利は得られなかつた。言ひ換へれば彼は感情の方に於て著しく豐富であつたが、理性に於ては比較的缺ぐる處があつた。然るに家康や賴朝は、その感激性は國民に愛せられる程なかつたけれども、理性に於て秀拔な人間であつた。

△愛は明智に導かれねばならぬ

世の中で實際の仕事にダメの利く人間は一時の感情に走ることはないのである。婦人といふものが、一體失敗するのはどういふ點に於て多くあるかといふと、即ちこの感激性に於てゞある。子供は可愛い、可愛いものには違ひないけれども、その可愛いといふことが、單に可愛いといふ感情のみに支配されては、それは母親の爲にも、子供の爲にも惡い結果を來す事になる虞れがあるのである。

其愛といふものが必ず理性によつて支配されなければならぬ。語を換へて云へば明智によつて支配される感情は、良い實を結ぶのである。私は何も賴朝や家康の贔負をするのではない、又人間が善いといふのでもないが、併し乍ら最後の勝利を得るといふ點に於て、餘程彼等に學ぶ所があるといふのである。

婦人が今日眞實に立派な者として、社會の文明に影響を及ぼさうとするならば只感情一遍の愛ではいけない、明かな智慧に依つて導かれた愛でなければならぬそれが文明の愛であつて、眞實の意味に於ける愛である。

約言すれば最後の勝利は明智に導かれる所の愛である、此愛により婦人が其子を愛し、優良なる兒孫を得、樂しい處の家庭を作るのである。そして尚餘力あらば、明智に結びつけられた愛により、婦人の事業としては最も應はしく、且つ麗はしい處の慈善事業を起し、丁度沙漠の中にオアシスがある樣に、此の物質文明の社會、この濕ひの無い、冷い社會の中に、四時絶えざる春風が薫するやうにすべきであると思ふ(講演筆記文責記者)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

主婦日常の心得

婦人記者

【禮儀を守る】親しき中に禮儀あり、たとひ一家の内たりとも、禮儀の缺け目はすなはち反目の起りと知るべし、妻を中心として、禮儀正しき家ほど見よく、且よく治まりたるはあらざる也。

【長上の指圖を受ける】女子は極めて從順にありたきものにて、軈ておのが意見も、これによつて圓滿に行はれ、おのれ以下のものも之を見習ひて自然一家に不平の根を斷たるゝなり。

【家業の手助けをする】奉公人の面倒を見て、喜んで主家に働かせる如きも、即ち家業の手助けなり、強ちマッチの箱を貼りて小遣錢を補ふものをのみ云ふにあらず。

【身ぎれいにする】美衣を纏ひ、麗容をつくるをすゝむるにあらず、よく衣と體とを洗濯して、いつも瀟洒としてありたき也、心の洗濯まで行屆かば此上なし。

【よく立働く】寢室にて三度大聲を發して下女を呼起すよりも、雨戸を一枚あくる音の、彼の耳には早く響きて、其上今少しお寢みと、慈悲の言葉をも掛けらるゝ也。而かも下女の閨を離るゝ事前者よりも早く、奥様の號令此時よりぞ行はれ初まる、故に奥様のよく働ける家の下女は多くは忠義也、よく働くと口やかましく且氣むづかしきとは自ら別問題と知るべし。

【近所の交際のよい】遠くの親類より、近くの他人といふこともあれば、近所合壁とは殊に親しくすべし、親しくするとは金棒を引歩くの謂にあらず。

【愛相のよい】女はやさしくてこそ價値はあるなれ、佛頂面など申す相は見よきものにあらねば「氣に入らぬ風もあらうに柳かな」を眞似て、いつも愛想のよきことを望む、決して顏を曲げたればとてそれで世の中が思ふやうにはならぬもの也。

【手ばしこい】椽を一つ拭くにも順序を考へ置いて裾で物を掃く如き事なく、注意よく手ばやく仕度きものなり。

【不平は言はぬ】下らぬことに不平を起し、それを八當りする如きは、沙汰の限りなるも、いやしくも道理に外れたる事また自分にも好ましからぬ事は他人に望む可からず。

【冥利を知る】襤褸を繼いで着る、食物を麁末にせぬ、其他勿體ないと云ふ事を知るべし。されど腐つた物を、勿體なしとて食ふ如きは、勿體なきを通り越したる也、是大いに心すべき事にこそ。

【家内の締りをよくする】障子の開閉、火の元の用心、雇人に對する注意、これ奥様の勤也。

【良人にさからはぬ】妻となりし當座の心にてあらんには、良人の感情を害ふことは萬々なし、もし良人の不身持なる事あらば種子は自分より蒔けるものと思ひて意見するにも氣永くすべし。

【子供の面倒を見る】親として子の憎きものは一人もなかるべし、まして自分の産みしものは自分の命にもかへまくほしくいとほしきものなるは、云ふまでもなきことながら、さてこれを育つるにさまで心を勞するかと云へば、まだ頑是なき幼兒に向ひてさも腹立しげに折檻するな

ど甚だ解し難きことあり、そは育て方のあしきを棚に上げたる仕打とも謂ふべし。いとし愛らしと云ふ口の下より、手を脊にする面倒さに、丸きもの與へて一時の骨休めする如きは、殆んど百人中の九十九人也、さてもいと愛らしといふ心は美しき衣着せて、親の奢を誇らんとてか、親となりては、子の心の鵜の毛ほども曲らぬやうすなほにやさしくすべし「うるはしき親子の愛は一家を圓滿にする第一の光なり」

【手跡の美事なる】女の嗜として手跡の見事なるなど誠に好ましきことにて、歌よむ筆持たんには此上なかるべし、されど思のうきたるかたに馳すれば身のあやまりとなるべし。されば手紙なぞを書くにも充分に愼むべきはもとより、妻たる日常のつとめを其が爲に缺くべからず。

【日記帳をつける】花に戯れ月に遊びしおもしろさをも記すべし、去乍ら必ず其日の陰晴、來客の有無、乃至は往訪のこと、又は小兒等の樣子なぞを書きつくべし。已が得たる感想を書くは宜しけれども夫や姑などの蔭言を少しにても書くなどは決してなすべからず。斯くて始めて後日の紀念ともなるべし、又其日の小遣をも明細に記すべし、これ費を省く途となりなむ。

【覺悟のよい】なか〳〵責任重き身の、平素の覺悟こそ肝要なれ、暮れ行く年のいそぎに、長き怠りを示す如きはその一例にて、身だしなみの如きも、いつの間にはと云はるゝやうしたし。

【手の内を出す】なさけは他人の爲ならず、日ごろ費用を節して、落つる涙に價あらしむるやう。

【無理を云はぬ】無理を云ふことは燃立つ心に一時は滿足するやう通ることもあるべし、然しまづ人の顏のしがみし時はおのれ其地位をかへて見よ、多くは心解くることあらん。故に他より無理を云はれたる時も、又は自分にて不滿足を感じたる時も決して無理を云はず、常に正しき心を持ち居ることを努むべし是れ實に主婦たるものゝ務めなり。

◎奇怪なる洲崎病院

先般來、驅黴院に入院中救世軍の助力を求めて自由廢業をする者が、續々として續出して居つたが、どうした者か新宿病院ではぱつたりそれが止んだ。不思議な事と探つて見ると、同院では娼妓の手紙は出すにも受くるにも、一切看護婦立會の上でなければ許さぬといふ事になつたのであつた。なる程斯うすれば救世軍なぞへ廢業の助力を求むる手紙も出せない道理、警視廳の病院が樓主への忠義立も驚く可き事ながら、帝國憲法によりて保護せられた信書の秘密をも有する事が出來ぬとは、實に不埒千萬な處置といはねばならぬ。

然るに茲にまた奇怪極まる報道に接した。それは洲崎辨天町一ノ一五萩原樓渡會照助方娼妓小萩事茨城縣川尻町生れ某(二〇)といふのが洲崎病院に入院中、手紙にて救世軍に救ひを求めて來たので、十二月九日例の伊藤大尉が同院に出掛けて娼妓に面會を求むると、「又來たな」と見て取つた書記の甘利政盛といふのが、出たり引込んだりしてゐたが、豫て樓主側と打合せしてあつたものと見へ、面會を拒むのである。元より唯追返されるやうな伊藤大尉ではないので拒絕の理由を醫師の技術上から作つた、即ち今日は本人は藥の加減で非常に興奮して居るから面會させないやうにといふ事で、又お出でを乞ふといふ。大尉は變だわいと思つたから、いやさういふ譯なら止むを得ないけれども直接私は醫長から責任ある言葉を聞かねば引取る譯に行かぬと頑張つたので、書記は是非なく暫く引込んでゐたが、やがて白服の醫師を伴れて來た。醫長德永覺次といふのださうであるが、書記と同じ事を說くので、止むなく引返すと、翌朝娼妓から手紙が來て、あんなに賴んで約束しておき乍ら、何故昨日は來て吳れなかつたか、今日は是非に來て下さいと認めてあるので、さてこそと伊藤大尉は、今度は先づ警察署に出頭し竹川警視副官の某警部から電話を以て面會方を計つて貰ひ、本人に面會して見ると、昨日はさうした特別の變ものまず今日も昨日もちつとも變りはないとの事であつたといふ。

醫師が神聖なるべき技術上の立場を濫用し、虛僞の證明をなすといふ事が眞實であれば一大事である。不幸にして本件は本人が樓主側の奸策に陷り合意の廢業をなして、本人の所在が救世軍に分らないので事實の眞相を捕へて、問責する事が出來ないのは遺憾千萬である。

母親の心得

婦人記者

○獨立心を養ふ事

鳩山春子夫人が其お子さん達を敎育なされたに就ては少なからざる苦心をなされたので御座います。其爲で御座いませうか、お二人とも今日では立派な方々になられました。今春子夫人より其一端を伺ひますれば「各自獨立するまでは酒と烟草とを嚴禁致しました。其爲でせうか、其後各自が獨立したる今日でも、此の幼少時からの習慣の爲に依然酒も烟草も殆んど用ひません、私は何時も子供に對する親の監督時期に惡癖習慣を付けるのは親として罪惡であるから、斯んな事でも嚴禁せねばならぬと申す事を相談的に申し聞かせて置き、決して頭から權柄づくに嚴命する樣な事は致しません。故に子供も中心から約束的に私の申聞かせを服膺しました。そして人生獨立と云ふ事の如何に尊きかと云ふ事を暗々裡に悟らしめました。卽ち子が親の勞力に由つて生活する間は絶對に親に服從せねばならぬが、成人獨立しましたなら親は子供の自由を妨げないと云ふ事を知らしめました。又人は先づ自身が誰れにも厄介にならず、誰にも惡影響惡感化を及ぼさぬ樣に努力することが肝腎であると同時に、出來るならば少しでも同胞兄弟を助け、世人を善化し、以て家の爲國の爲社會の爲に盡すべきものであると云ふ事を敎へました。自分の身を修め獨立するとさへ出來ないのに徒に大言壯語するのは大なる誤りである事をよく／＼申聞して置きました。其が爲に獨立と申す觀念は私の兩子の腦裏には餘程深く印象されてをりました」と申されました。

○決斷心を養ふ事

元の大學總長濱尾氏の母堂も非常な賢母であつたそうで、濱尾さんの御修業中東京にゐらつしやつた時なぞ、但馬のお宅から時折着物を送つて下すつたそうですが、其着物は決して新しいものではなく、貧困な中から送るのであるから、皆洗晒しの樣な物でありましたが、濱尾さんは必ず兩手で頂いて後身に著けられたといふ話であります。凡そ子供を育てる時に最も大切なのは果斷の力を養ふことで之を養ふには、先づ親自身から子供に對する返事の仕方を研究せねばなりません。親が決斷のよい返事をしつければ、子供も自然に決斷のよい返事をする樣になります。「お母さん今日は黑い着物にしませうか白いのにしませうか」と子供に問はれた時、母親は大抵『何方でもお前の好い方におしなさい』と答へるが、是は極めて惡いのです。子供自身が迷へばこそ母親に尋ねるのですから、母親は『白いのにおし』とか『黑いのにおし』とか、確乎した返事をする樣にせねばならぬと常々申されたそうで御座います。

○子供を致ふるに變化を務むる事

子供の性質は變化し易く、大人の樣な連續がありません。先生に連れられて寺院を見に行く『是は天平時代の建物である』など〻説明されて居る間に、雀が一羽飛んで來れば『やあ雀が飛んだア』と云つて何時か雀に氣を取られて居るので御

座います。斯んなに注意が永續しませんから、一時に續けてものをすることが出來ませぬ。例へは嬰兒に一寸牛乳を飲ませるにも、同じ匙で幾度も〳〵同じ動作を繰り返させては直ちに倦いて一杯も飲み切らぬ内にモウいや〳〵となります故に初め匙で飲ませたら『どうれ今度はコップから』とか『オ、好い子だ今度はお茶碗にしませう』とか種々形式を變へて飲まして居ると知らず〳〵に呑むべき乳を飲んで終ひます。机の上にあるナイフを取らうとした時でも只『ア、いけない〳〵』などゝ申しますと益々欲しがつて泣き出します。『此處に斯樣ないゝ物がある』とでも云つて害にならぬ物に氣を移させて、其間に危い物を片づけて終へば濟みます。顔を洗つてやるからとて、押へつけて置いて、無暗に洗つたりしますから泣き出します。此心持をのみ込んで致せば子供は云ふ事をきくもので御座います。少し成長して少年となつた子供でも矢張此心掛が必要であると思ひます

大根料理

○みどり大根の煮付

質のよろしい大根を選び、兩端を切り去つたら、二三分程の厚さに輪截りにし、五六枚づゝ重ねて端より細截りにいたし、清水と共に鍋に入れて火にかけ、ザツと茹でたら直に笊にあげ、又鍋にもどして、濃い煮出汁と味醂と醬油とを加へ、大根とすれ〳〵の加減に入れ、程よく煮汁が減つて、煮えましたら小丼か皿に盛り分け、その煮汁をかけ、罌粟などをふりかけて供す。罌粟は茶焙器で弱火の上にて程よく焙ずれば、宜しいのです。

○みぞれ大根

是も成るべく質のよろしいのを擇び後先を切り落し、水で洗ひ、水氣を拭ひ、縦に皮を剝き去り、二三分の厚さに輪截にし、其を五六枚づゝ重ね、端より細長く截り、更にそれを横に刻みますと、恰度細小なる賽形になります、截り終りましたら手早く鹽水を拵へてその中に投れ、そのまゝ廿五分經つたら、毛飾を伏せ、その裏面に載せ輕くその上より掌で壓しますと水氣が斷れますから、今度は丼の中へ移し、程よく酢をかけ、箸にてよくかきまわしておきます、又之に取混ます材料は、芝蝦かさへまき蝦などならこの上ありませんが、何種の蝦でも差支はありません。さて其蝦を清浄に洗ひましたら水氣を斷り、よく沸騰したる湯の中へ入れ、少量の鹽を加へましてほどよく茹であげます。茹だりましたら手早く水中に投り、よく冷却した後、頭部をとり皮を剝き背腸を取りまして程よく截ります、それを今度は鹽を少し混ぜた酢の中へ入れ酢が染みましたら、笊の上にのせて酢氣を斷つておきます。そこで刻みました大根を小鉢に盛分け、その上に右の蝦を配合よくのせ甘酢をかけて出します。

○大根のふろ煮

大根を五分程の厚さに輪截にいたし、煮出汁を入れて軟かになるまで茹でます。其間に胡麻味噌を拵へるのでございますが、その手順はお味噌が百匁なれば黑胡麻一合二三勺位の割合で、胡麻は一應洗ひましたら直に笊に布巾をあてその中へあげ、堅く水氣を搾りまして乾きましたら焙烙にいれ弱火の上で炒ります。そして炒れましたら擂鉢にあけ、とろ〳〵になるまで擂りまして砂糖と味醂とを程よく加へて練味噌をこしらへます。其内大根が軟かになりましたら、お椀に掬ひ入れ右の練味噌をのせ、お椀の蓋をいたし成るべく熱い中に供します。

○大根のシチウ煮

大根や胡蘿蔔などを亂截にします。そして一羽分の鷄の骨を適宜にきり大根などゝ一緒に少量の鹽を加へて火にかけます。一二回も沸騰いたしましたら火加減を弱くして一時間程茹でます。軟かに煮えましたらお鍋を下し別鍋に毛飾をあて其中へあけて鷄の骨を除き大根などをその中へ戻し、鷄肉の細かに截つたのを加へ、味淋と醬油をさして又も火にかけます。十分に煮えました頃を見計らひ、メリケン粉を少々清水で溶いてお鍋の中へ入れ直様かきまわし、トロ〳〵の加減に煮えましたらお鍋を下ろし皿に盛り分け、胡椒粉などをふりかけて供します。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

寄書と來翰

一●一 同志が血涙を綴りたる赤誠の大文字
燦として白熱せる人道の靈光に浴せよ

伊豫今治「南豫の光」主筆　露無・文治

拜啓先日は廓清より論文轉載の義御快諾被下難有御禮申上候、先年當愛媛縣會にて縣下樞密の地に公娼設置許可相成樣決議致し候處、松山市今治宇和島兩町に於ては絕對の反對を致し遂に其決議を無効に終らしめしこと有之其後當地方に於てもしば〳〵公娼設置の運動を致し候ひしかば其都度正面より反對して今日迄は暗黑の運動を不成立に終らしめし次第に御座候、然るに先般愛媛縣會に於て

「一廓を限定して藝妓置屋及び料理屋を營業する者に對しては營業時間に制限を置かざることに規定せられんことを望む」

との建議案を提出して之を可決せし怪事出來致し候、之まで散在せる一切の藝者及び料理屋を一區域にまとめることは取締上一進歩と存候へども、時間無制限の營業を許可することは絕對に不都合のことゝ存じ候、何故縣會議員がかゝる建議案を提出して之を可決せしか、あゝ之れ實に名義よき公娼設置に外ならずと存じ候、ア、是何たることかと痛心の至りに御座候。

今後廢娼は申すまでもなく藝者の取締をも一層嚴重にし我國より淫猥の惡風を一掃致すやうつとむること官民の共に努力すべき本分なれと存じ候、然るにかゝる議案を提出して、縣會に於て之を可決致候へば當局者之を認可せずとも一般の人心にはかゝる所業を惡とする良心の働きを鈍るの恐有之且社會の制裁力減殺せらるゝは當然の結果と存じ候。萬々一かゝる希望が成立して縣下一般に施行せらるゝ場合には、それこそ大變に御座候。同縣下到る處に名義よき公娼設置せらるゝ譯にて風敎の頽廢人心の腐敗日を見るより明かに御座候。

かゝる不法の建議には全然反對致し度存居候、何卒御加蔭且つ應分の御助力願上候、昨日大阪每日新聞の雜報欄にて岐阜縣會議員の醜態を見て憤慨の至りに御座候。

我國の男女關係を亂る者
風俗を壞亂する者

を政府に於て嚴重に取締ることを願度御座候、愛媛縣下に於ても、公娼新設は申までもなく藝者の徹夜營業を許可するが如きなからんことを切望罷在候、此問題に就ては種々の方面に運動をなす者有之や難計候間　何卒其筋へ至急直接御交涉なし置被下度候

◎性の教育

在北米　佐野源一郎

廓清記者足下

醜業婦救濟のため金力と勞力とを惜まず、彼等を魔窟より救出し、彼等に適當なる職業を供し、再び光明の世に立たしむるの精神と其事業とに對し、予は滿腔の同情と敬意とを表する者であるが、それと同時に醜業婦は如何にして生ずるかを深く研究し、純潔の少女が泥中に陷らざるやう努する事が肝要であると思ふ。予は頃日一書を讀み聊か感ずる所ありたれば、卑見を述へて會員諸君の一考を煩はしたい。

ペットフォード婦人矯風會長が紐育市婦人醫學協會に於ける演說の一節に「多くの少女は十三四歲の頃、小學校に通學の折、男生に不道德なる行爲をなしたりと告白しぬ。勿論兩親及教師は是等の事實を知るに由なかりき。而して後、春機發動期誘惑の來るや自ら既に不貞潔の身なるを知り、斯かる行爲を無頓着に看過するなり。少女も十二歲に至れば不倫の行爲たるを知ると云へども、其恐るべき結果を知らざるなり」と。予は日本に於て屢々同一事實を耳にし、又某地方の如きは每夜青年が隣家の女子を訪ひ、鷄鳴の頃歸宅する風習あり、かくて少女が懷姙するや、社會の苛酷なる誹責排難を免れんがためには、墮胎劑を用ゐて暗々裡に殺人の罪を犯すの餘義なきに至るを聞けり又東京の如き大都會にありては一時間一墮胎ある割合なりと某醫學博士は語りぬ。これ素より法律上の道德ゆるす可からざる罪惡なりと云へども而かも事實なり。

又地方の青年女子にして一度郷里に面目を失するや多くは國を去つて都會に出で、いかゞはしき茶屋、料理店の女中となり、墮落に墮落の步を進め、遂に純然たる醜業婦となるもの幾何なるを知らず。或は下等勞働者に嫁し、夫の强請により淫を鬻いで生計の資に當つるなど可憐の境遇に沈淪するもの決して少しとせず。

社會改良家、慈善團體などが種々なる方法と手段とにより、彼等を魔窟より導き出し、相當の職業と地位とを與へ、貞潔なる生涯を送らんと努むれども、我等は其婦人が所謂「豚洗ひ潔められて再び泥中に入る」の事實を屢々見聞す。何故に正しき社會に止まらざるやとの某氏の問に對し一婦人は淚ながらに「妾は

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

誠實と眞面目の餘生を送らんとすれど、世の婦人は怪しき眼光を以て妾を眺め、かげにて我が古疵を語り、妾が地位を保つに堪へざらしむればなり」と答へたりと云ふ。

あゝ婦人を墮落せしむるものは社會なり。婦人を救濟するも亦社會なり。試みにこゝに一青年ありとし彼は祖先傳來の資産を蕩盡し、不倫行爲を重ねたりとせんも、社會はこれ男子には有勝の事なりと云ふにあらずや、而して若し男子にして一度其前非を悔ゆるに於ては、社會は再び彼に地位と便宜とを與ふるに吝ならず、只獨女子に對してのみ甚だ嚴に且酷なるなれば怪しむ可き道德と云ふ可し。

吾人草木を見る、美しきは其花なり、精巧なるは其組織なり。古來學者が植物機能中細心注意して研究せしは花なり。花は草木繁殖作用をなし、造化の妙を極めたるものなればなり。人體にも植物と同樣、繁殖作用をなす機能あり。其機能たるや、植物及下等動物のそれに優りしものなるは必せり。吾人は其組織生理衞生等に關する智識を得て、この天賦の機能を保護するの義務を有す。然るに世の大多數は「猥褻」の一語のもとに斯かる重要問題を忽諸に附し、父母と云へども、青春期の子女に對し、これに關する相應の智識を與へ、眞面目に自己の貞潔を保護する道を敎ゆる事をせず、子女も亦父母に向つてかゝる問題に關して質問する事も恥ぢ、從つて賤劣なる友に計り、はては誘はれて天賦の機能を玩用し、自己の貞操を破りて墮落するに至る。

故に余は之れが根本的救濟策として「性敎育」の必要を思ふものなり。

然れども日本目下の狀態にては、兩親自ら子女に性敎育を授けんは甚だ至難の事に屬す。先づ彼等父母は其必要を痛切に感ぜず。又彼等にはそれに關する適當の智識なきが故なり。さればとて小學校にて之を授けしめんには、敎育者自ら其智識なきを以て之れ亦望むべきにあらず。於茲廓淸會、矯風會などの社會改良團が率先し、敎會或は學校、其他適宜の場所に父母を招待し、時としては單に婦人又は男子のみに限り專門醫を聘して講話を乞ひ、兩親に智識を與へ、父母をして其子供の性敎育の任に當らしむる必要ありと信ずるなり。

天鹽國名寄市街地　西田　新藏

當地は漸く八百戸に充たざる新市街地なるに、料理屋と稱して醜業を營むもの十戸もありて、夫れに附隨する酌婦とて醜き事を營む者四十名計りも居り候、此實に或方面は名狀すべからざる醜態を演じ候處、此程に營業者等協議の上遊廓設置を願出んと申出ると同時に、警察分署は取締方從前の儘にては困難なる故一層遊廓設置せばよろしからんと尙相槌を打ちたるに、村會は左樣の事ならば致方なからん、一層公然許可を得る樣申請する方よろしからん、是れ我本村の發展策なりと決議いたし候由、乍去二人の議員は不贊成者ありたるも議員大多數が設置派なれば衆寡敵せずとて缺席したりと、實に返す〴〵も殘念なり、如何に少數の反對者たりとも正義は最後の勝利を得るは疑なし、今日こそは公娼制度も舊慣の余澤を殘し居るも、我日本も世界と共に正義公道を進まねば世界の大勢と歩調揃はざれば決して少數とて失望するに及ばず何々議員は斯々の理由の下に反對せりとせめて議事錄に殘る樣致し度ものなりと思ふも、過ぎ去りし事は詮方なく候が、何とか廓淸會の力を借りて此許可の與へられぬ樣いたし方なきものに候哉、御相談に及び候也

乍却當地には青年會ありて、此副會長某は議員の一人にて反對者なり、我敎會員の一人も議員にて强き反對者に有之、旭川の婦人會にも謀りて出來得る運動は開始致度存居候、右御了承願上候

◉自由廢業に就て

岡　桂助

八月二十八日の二六新聞を見るに、新吉原角町二十番地貸座敷金中米樓事寺内金三郎の抱妓娼多摩郡中野町源氏名千藏事青山チトセ(二十)新潟縣中蒲原郡沼垂町源氏名都事石井マツ(二十)と云ひ、チトセは昨年十月六年二百二十圓マツは本年四月二百八十圓にて、同樓に勤の身となつたが、病苦到底耐へぬので、二十七日午前十時暴風雨の最中に、自由廢業をなさんと、日本堤署へ申請せしも、仲々埒明かず、病勢益々募り辛さに堪え兼れ、出頭したりとて、淺草七軒署に泣き込んだ處、管轄違ひと言はれ說諭の上、日本堤署へ移牒したので同署にては、抱主及兩人を呼び出して、目下雙方取調中云々との記事がある。

僕は此の記事を見るや、實に憤慨した、之れ、正に、人格の束縛ではあるまいか、而かも立法の精神を無視して居るではないか。

一體娼妓の自由廢業は、彼等に附與せられたる一大特權であつて、彼等が一朝自由廢業を申請するや、何人も之に干涉し之を阻止する事の出來ないのが法律の規定である、故に彼等が、廢業を申請する時には、其の事實原因に拘泥せずに、即時之を許可し、且つ名簿より削除するのが、警察署の任務にして義務である。

然るに警察署は、自由廢業を申請すると、屹度逡巡する、何が爲めに躊躇するのか、解釋に苦しむでは

ないか、疑問に價するではないか。

由來法律なるものは、所詮權利義務である、而かも娼妓の一大特權を實行せんとするに當り、種々妨害して、正邪曲直の理非を判斷し、直接人權保護の任に當る處の警察機關迄が何等かの口實を以て、權利行使を抑制しようとするは實に筆舌に盡せぬではないか

吾人は自由廢業の聲を聞く毎に、斯る怪事を耳にし眼に見るは實に忍ぶに堪えない、何故に娼妓の權利を無視して、抱主の利益を計らんとするか、貸座敷との間に何か裡面に伏在して居る事實がありはせぬか、疑ふ樣になるのだ、若し左樣な事實が纏綿して居ないならば、宜しく彼等の申請を聽許してやるべしである

宜しく基督道徳を根底として、法律の精神のある處を思考し、冷靜なる頭腦と公平なる心を以て、大正御治世の下に斯る不祥事のあらぬ樣にせねばならぬ。(八月二十八日)

一會員

拜啓、役員諸君の御精勵を感謝す。本會の主張は理想としては最も完全なるも、如何せん積年の宿弊容易に改善し難き事慢性病の如し、之を治療せんとするには從來の主張運動の外に、尚左の新治療を併用し、此一大病根を絶滅せられん事を望む。いふ迄もなく先立つものは金なり經費は會員を增加するより外なからん。

一、張店制度を廢止せしむること、

いまだ經驗なき男子の先づ最初に陷るは此店頭陳列式なり。此方法は最も醜業者に利あり、方法としてにこゝ知事の權限内のものなれば、各支部役員の知事を動かせば足る事に非るか

二、娼妓稼業の非なる事を最も平凡に説明し思ひ違ひなき樣注意を與ふる文案を起草すること、

これは山室氏に依頼したし、娼妓稼業の裏面を最も露骨に示し、此注意書を最も娼妓を多數に出す方面へ配付し、娼妓候補者の跡を絶つに努むること。方法としては、支部及び會員は其原稿に基き、資力の及ぶ限り、多數を印刷に付し、自己の受持を定め、少くとも其受持部内よりは醜業者を出さゞらんことを期す

三、醜業營業者(樓主又は席主)の子弟にして中學校に籍を有する向へ其營業の非を示し必ず同業を繼承するなからん事を勸告すること

これは相手が相手故、最も效果あるべしと信ず、但醜業候補者を絶つ上に於ての事なれば何れも未來に關す。方法としては、少數なる故本部に於て印刷に付し、支部及び會員責任を帶びて右子弟に交付訓導すること。

如斯假し未來に於てなりとも該營業者の衰退を計り娼妓志願者の減少を計り、男子の墮落する機關を廢止せしめたらんには、本會の主張を遂げしむるに非常の利便ならんかと思ふ。

靜岡縣氣賀町　宮下新一

本部各員益々御清穆奉大賀候、扨當地も會員達は益々廓清に心を留め會員の誘引に力をそゝぎ居り候。

二伸　當地にても先月の町會議員選擧に醜業者二級の選出議員と相成候に付會員二三名と反對運動を思ひ立ち居り候も何分にも會員少なく反對演説も出來ず候に付貴本部の御助力を願上候、尚當地數會にて今回萬國共勵會に加盟し開會式を來月致す事に定り島田會長を御願ひ申すとの事、何分ともに來氣の節は助力あらん事を呉々御願申上候

◎在米日本青年の狀態

在米　中山躬堂

「男子立志出鄕關不成志不歸死」一度立志して住馴れし鄕を出で、波濤數千浬の大平洋を横斷し、目的地に來りし、日東健兒中には、文句通り初志を貫通しつゝあるものもあるが、先づ以て珍らしい。その曉天の星中には肺病に取付かれて死んでしまうのもある。病氣で死ぬのは致方がない、天命だから、しかし乍ら多數の青年は否總て病氣に罹かつて居る、一日働けば二弗取れる、四日分の食費は充分だ、親はあるでなし友人があるでなし、友人があるが同じ性質の連中だ、誰も叱りもしない、玉でも突いて遊んだ方が安樂だといふ最初の中はまだよいが、之が本となつてやゝ酒の味、女の味を覺へる、もうこれまで惡徳學校で修養すると、惡徳から免狀を下さる、之を自慢する奴さへある、友人を誘ふ、進んで日本から來て間もない若い青年までも入學をすゝめるといふ風で、在米日本青年の大部分がこの學生だから殘念だ、いやはや五十になつても歸國は出來ない、白髮の爺さんも居る、學問のある者さへも墮落してしまふ、試に日本人町に出て見るとわかる、僅々五萬の同胞のある加州、田舍に配列してある筈なのに、町には三々伍々所ではない、二十人三十人群をなしてあるんだから堪らない、蟻地獄へ落入つた蟻の樣に出る事が出來ない、勿論日本に居るとは違つて淋しいだろうが、つまり修養が足りないのだ、酒をすゝめらるゝとすぐ飲む、酒が卒業すると金が少しでも働らくと得らるゝから女郎買もする。支那バクチもするで、品行の正しいものは先づない、女郎買をするのは品物を買ふのと同じ樣で、不道徳とも何とも思てゐないのみならず、當前だの、大いにやて快

樂なすべしと、大言するものさへ、ある所でないすつかりだから驚く、かうゆう具合で、まるで墮落してしまつてゐる、先に悪魔の家來でないといふ部分は、只キリスト教を信奉する者だけだ、佛教信者はあてにならない、クリスチヤン計りが曉天の星の如く、キラ／＼と輝いてゐるのだ、教會はたくさんあるが眞の教會はまづない、日本青年の狀態はざつとかうゆう風だ、ます／＼廓清しなくちや駄目だ、眞のクリスチヤン計りにしたいものだと僕は思ひ、また大いに會の擴張を米國にまでも計らうと思ひつゝある、要するに救濟せねばならぬ、それは廓清會の自由義務だ、僕の義務だと僕の思ひのまゝを述べるとまづかうゆう狀態だ。

フレスノ市　山鹿　讓

謹啓　神と社會との爲めに益々御盡瘁の段奉賀候。當地は中部加洲香加洲中にて有名な腐敗せる町にて現に日本婦人醜業婦（公然）四十餘名、酌婦廿餘名のあるにても知られ申候。加ふるに支那賭博場あり（御得意樣は大帝國の日本人）年に數萬弗の金子を支那人に獻納する忠義所有之候、昨秋赴任早々賭博撲滅運動を開始致し候も種々なる事情の爲め且つ或部分の壓迫の爲め遂に大なる功果を擧げ得ず相なり申候は反す／＼も遺憾なる事と存じ候。目下排日問題にて天下の輿論沸騰せる有樣にて土地所有禁止案も此頃の形勢にては通過受け合ひにて早晩法律として發表せらる事となるべしと存じ候が實に同胞發展の爲め痛心の至りに候。飜つて同胞社會の方樣はと申すに排日案が或る野心政治家等の政略上の意味のみならずかゝる同胞が如斯に米國人の感情を害しつゝあると同時に排日の種子を蒔きつゝある事に想ひ至らば轉た慨嘆の念に堪へず候。在米同胞社會の廓清は實に目下の急務に御座候。貴下が廓清の御事業に御盡力に相なり居ると承り色々御助力を願ひ度と存じ一書を認め申たる譯に候。何卒此後御相談致す事多々有之可候間何卒宜敷願上候

◉相變らず困難な自廢

江尻町　矢崎生

先日一婦人が狼狽して當所に驅け來り、私は遠州榛原郡初倉村字船木星野岩吉次女しげ（二十七歲）と云ふ者なるが、一家の不幸打續き、三年前豐橋市東田遊廓貸座敷初音樓磯田一郎方へ百八拾圓の前借にて身を沈め、娼名初船と名乘り、泣々其日を送て居りましたが、借金は追々增して四百六拾圓となり、債務を果す時もありません故、近頃僻いでのみ居りました。折柄妹が大病だとの通知故見舞のため一週間の足札を貰つて參り、歸宅して見れば、父が妹を看病して出稼せぬため、今は醫藥を求むる事も出來ず、生計殆ど困難の有樣なれば、私は此際娼妓を廢業し妹の看病に務め、父を助けて老後を慰めたしと思案して居りました時しも袋井町醉多樓の娼妓が貴下のお力を以て自廢せし事を報知新聞で見ましたから、早速御救濟下さる樣御願に參りましたと物語る。余は一と先づ本人を歸宅せしめ置き、一面本人實妹病氣の實否其他調査の上、愈々同八日早朝おしげ同道豐橋市に出張した。

△

何時も警察署へ出頭前に署長以下、各巡查に宛て、廓清雜誌數部を送りて主義目的を明瞭にして着手する例であつたが、折惡く雜誌か手元になかりし爲め、豐橋驛に下車するや停車場前救世軍小隊に立寄り、中尉吉岡磯吉氏に面接し雜誌所持の有無を尋ねたるに、當市には廓清會員なければ従て雜誌もなし、然し市內中八町なる日本メソヂスト豐橋教會に行きて尋ねよと答へられ、早速同教會を訪れ牧師鶴飼吉次氏に面會し、以前の如く尋ねたるに、牧師は廓清會には何等關係なければ之れより二三町先なる。普及福音教會を尋ねられよとの挨拶、余は力なくも東八町なる同教會に到りしに、牧師柳原徹氏は喜び迎へ且雜誌二部を與へられたれば、之を携帶して午前十一時豐橋警察署に出頭し、雜誌を差出し主義目的を示し、刺を通じ署長に面會を求めた。同警察は署長は缺員にて次席警部上野警男氏之が代理を勤めて居られるさうであるが、上野警部は事務多忙の爲め暫時待たれよと、受附巡查をして告ぐるを以て、余は娼妓と共に控所に腰打掛け沙汰の至るを待つて居つた。

其時受附の巡查は、娼妓を呼び、其方は昨日迄の外出許可なるに、本日出頭せしは取締規則違犯なれば、拘留に處せらるゝやも知れずと、左も樣子ありげに告ぐるを以て、余は不審を懷き、娼妓が所持せる足札を調査せしに、六月廿五日より七月一日まで一週間、七月一日より七日迄一週間と許可證に明記しあり、即七月一日に對し二回の許可を與へたるを以て一日の相違ある事を發見し、其旨巡查に申出たれば受付巡查は、警察署の過失なれば其罪を問はず、暫く控へ居れと、語氣何となく樣子ありげに見受たる故、怪しからぬ事と思ひしに、娼妓は小聲にて、彼の巡查は自分抱主の妻はまの實兄鈴木と云ふ者ですといふ。都合の惡き巡查と思ひながら控所に署長の沙汰を待ち居る中、警察署の門前俄に騷々敷に出で見れば、腕車數十臺あり毛色の變りし人々數名宛此所彼處に佇んで居る。余は何事ならんと怪り居る折しも、蓄髯せる一人の男余の前に來り、自分は當署に十年以上奉職せしが先月中職を

辭し、當時は豐橋貸座敷公認紹介業を營み居る中村秀吉と云ふ者なるが、今回娼妓初鮎の件に付て穩當なる御處置に預り度し、然る上は貴殿の運動費として即金五百圓を呈出する事とせん、實は今回一人の娼妓を失ふを苦む譯に非ず、當貸座敷へ惡例を殘す事を恐るゝを以て自分が樓主總代として御話し申す次第ですと語る、余は五百圓の運動費を出金する事とせば、四百六十圓に減じて本人しげの證書を買ひたしと、風に抑の挨拶して控所に席を移せしが、夕刻に至るも署長より何等挨拶なく、樓主側は妓夫其他無賴漢の數を増し、示威運動に努め、一人の妓夫の如きは娼妓の傍に立ち、殊更に懷中より短刀を取落し、或は他の妓夫を呼び、護身用のピストルは何處にあるや、など間接に脅迫を試むるを以て娼妓は恐怖の念を懷き泣す出す故、余は夜に及ぶに從ひ不穩の模樣ありと認め、娼妓を誘ひ警察署裏門より拔け出で、普及福音教會に到り保護を請ひ、余は一人にて警察署裏門より歸り、控所に休憩し署長の沙汰を待つ事とした。

時は刻々と過ぎて十一時を報ずるも警察官はそ知らぬ顏して放任し置くより、受附の巡査に促すと、當日は警務長の巡回にて多忙を極め、署長は警務長を旅館に訪れ宴會中だといふ。余は娼妓取締規則第五條に、娼妓名簿削除申請を受理したるときは直に名簿を削除すべしとあるにも係らず、午前十一時より午後十一時に至る迄其手續を爲さゞるは、取締規則を無視せし不當の所置なりと二三の詰問を試みたれば、居合せたる巡査は電話にて署長に照會せし結果、明日午前九時警察署に出頭する事を約し、引揚げんと警察署を出でたるに數名の妓夫は余に向ひ、娼妓は何處に行きしやと迫り、余に尾行するを以て、余は警察署に尋ねよと答へて町内を從横に馳け廻り、豐橋座の蕎麥屋に立寄り、夕食を喫し妓夫等が蕎麥屋前に七八名余の出づるを待ち居るを見て、窃に裏切戸より出で一目散に普及福音教會へと驅けて行つた。折しも柳原牧師は家族一同と共に余の身上を氣支ひ、無事を祈り居りし事なれば互に打ち喜び、神に感謝の祈禱を捧げて一夜を明した。聞く處に依れば樓主等は八方に手配して娼妓の宿所を搜索したさうであるが、發見する事が出來なかつたといふ。

翌九日午前九時、余は警察署に出頭せんと娼妓を引連れ教會を出でしに、街路の要所々々に妓夫を見張りに置きしものと見へ、一人の妓夫が娼妓を見て來たぞと叫ぶや四方より拾數名馳け集り、余等を取卷き前後に立塞やり、一寸と此家に立寄り下されと異口同音に依賴するを以て、止むなくそこへ立寄たるに拾數名の人々黑幕となり密議を凝らし居る者の如くなりしが、落選せる五十有餘歳の男、余の前に來り、自分は當市市會議員村田儀作と云ふ者なるが、今回の自廢事件を示談廢業の運びに致されたしと語る故、余は市會議員が斯かる問題に關係するは不當の事と思ひ、聞糺せば、本人は同地山村樓の主人であるといふ。又花月樓主人高柳都治及石縣人將等の各樓主から同樣の談判交渉を申込んだが、余は懇に之を拒絕して娼妓を引連れ、警察署に出頭せしは既う正午であつた。

樓主等は其目的の遂せざるを恨み、大激的に娼妓が携帶品の衣類を勝手に入質せしは不都合なりと、告訴狀を提起したれば、上野警部は同時に娼妓を取調べたが、おしげは他の娼妓と遊び、花分と云ふ約定にて之まで衣類は自身の望む品を買入れ、之を借用金へ組込み每日の稼高にて利子を支拂ひつゝ居れば樓主の衣類に非らずと陳述したので、警察署は犯罪構成の見込なしとて告訴は其まゝとなり、午後五時漸く名簿削除の手續をせられ、おしげは自由の身となり同六時下り列車にて余と共に江尻町に引揚げた。

翌十日同地東遊廓大垣樓々主稻川辰三代人鈴木德太郎なる者がやつて來て金若干を投じおしげを連れ歸らうと企てたが余の說諭を受けて空しく歸つた。樓主達は何執念深くもおしげに對し再び告訴狀を提起したので、八月二十一日おしげは靜岡地方裁判所檢事局に於て取調を受たけれども、說諭の上放還された。

I T 生

記者足下　生は常に廢娼の運動に贊成して居るものである。この間老いたる夫婦連が加奈陀から來た二日斗り方々引連れて歩いたが生も每日工場に務めの身の充分な案内も出來兼ねたので他の人に托して彼等が希みの吉原へ連れて行かしめた彼等は痛しき悲慘の光景であつたのである。彼等は夜十一時半頃歸つて來た。生は早く工場から歸つて待つて居つた。記者よ彼等の口から出た最初の言葉は何んであつたと思ふ。「オーミスターT吾々は物すごい有樣（[illegible]）を見て來た」と夫人は云つた。「エース吾はかゝる光景を見た事がない」彼女のハスバンドが相槌を打つた。生は少し恥しく思つたから貴君の國にも賣娼が行はるゝてせうと云つたら「ありますけれどそのおもむきが異にして居る自由がある」と云つた。まだ〱云つてやり度い事が澤山あつたが、夫人の「彼女の憐れな顏をして外を見て居るのを見て、知らず〱に窓の際に行つて、六七人と握手した」なる言葉は生の口を塞いでしまつた。日本に幾人の婦人があるだらうか、深川竹に身を沈めて居る憐れなる女の手を握る可き。內ヶ崎兄の云はれたヂョセフイン夫人の如き人を要求して居る時代に……之れについて或婦人が、この墮落せる生

涯よりはなれ得た實に面白き話しがあるが、又何時か時を得て書きませう。之れもある美人、人の範となる可き人が、同情の餘り、身を厭はで彼女に近き、全く一變させてしまつたのである。

山形市　佐藤欽三郎

拜啓、貴社益々御隆盛、社會人道の爲め慶賀の至りに奉存候、小生事客月上旬以來當地宣教師クック氏方に參り働く事に内談有之候處、彌々同月二十四日全家引連れ赴任致すことと相成候に依り切角會員たる可き同志の士を勸誘中に遺憾種まき丈け致し其良好なる結果を見るを得ずして米澤を出發したるは誠に慚愧の次第に御座候。然れども既に小生の手に於て會員となりし二三の兄弟姉妹は何れも貴會の爲に必ずなるべき會員と信じ居候、甚だ乍輕少別紙壹圓小爲替を以て御送附申上候間小生の會費の中に御加へ被下度奉願候。

尙山形市は數會員も多數有之候に付同志の會員を募集し其内に時々御紹介可申上と存居候。

信州中野　實見生

拜啓、本日の東京日々新聞に於て御會の社會に對する公明なるを感服仕候。就ては各地に於て料理屋と其筋とは密なる關係ありて、事實強制に堪えずして、藝妓の廢業の届出に行けば事を左右に托して更に手續を取らず、終に料理屋の主人を呼び、置屋の番人を呼びなどして、廢業を無理に止むるが如きこと小地方には毎度の事に候。又小地地は警察署長より大の酒飲みの爲め、部下の取締出來ず、點檢とか、鑑札調べとか申して部下の料理店の只呑みを更に改めずして、益々盛に向ひつゝ有之候。つまり查公が只酒を飲み、署長も亦借り倒しをなすが爲に、自由廢業などなす者には、主人に對して有利なる方法を講ずるを大の義務と心得居るものと存候。田舍の爲め當局の橫着を攻むるものなくして、唯なり行きに托するのみに御座候。又料理店に於ても、いまだ僅に十五の幼女をして無理に客を取らせ、而も其數多きため疾病を起して非常なる惱みに陷り、醫師も注意なせしに關らず主人は更に手を加へず、唯置屋に於て類り少い他人藝者の暇の時を第一の力として、氷嚢を頭につけ、人事不省になりて苦しむ樣實に見るを得ざる悲慘の狀況に候。

鹿兒島縣吉松機關庫　福島　武吉

謹啓　益々本會發展のため先輩識者諸氏の健闘感謝致し候、機關誌「廓淸」は益々愚生等の心を淸からしめ見る度毎に、其主張さるゝ主義に心を醱さゞるは無之、現下の青年に缺く可からざるものと信じ、外にも進んで其主義の徹底に努め居り候。然れども如何せん、當地の如く山間僻地にして、斯かる主張に耳を傾くる者は極く少數にして、青年男女を教育する教員さへも甚だ冷淡にして此事に就て甚だ等閑に附し居る如く見受けられ候。

然れ共我れは其間に立ち專ら主義の徹底に努め先日の如きは彼等教員と同席に會合する機會を得申候爲めに教育家と共に此の山間淸醇なる地に介在する不良料理店殺滅を共に計らんと物語りしに、意外にも彼等教育は、「料理屋の存在は土地の繁榮に影響あるを以て寧ろ歡迎する且又我等教員は常に彼家に遊ばんと欲す」と言へり。生は實に此の言の意外なるを驚けり。而かも子女を教育する教育家にはあらずや。これを以て見るに實に目下の教育家は無能なりと感じ、須く基督教の姦淫罪を知らしむ可し、且それと共に本會の旗幟を一日も早く當地にも見るタイムを得ればならぬと有識者に訴へ大に努力致し居る次第に候。

四〇

當地は斯の如くなれば運動上不便を感ずる事も不尠且又他の罵りも妨害もなきにあらず。キリストエスのガルバリ山の十字架を思へば、又ソロモンにせよ、ルーテルにせよ、近くはヂエネラルブースにせよ、非常なる努力と奮闘は遂に最後の勝利なりしを回想すると きは餘程心を強からしめ居り候。

因て若し幸ひに本部に古雜誌あらば御送附被下此の運動に補勢せられん事を望む。

淺草　中里正一郎

嗚呼我等の先輩なる本部役員諸氏並に會員諸君、何卒我等の意を諒せられよ。回顧すれば小生貴會に入會してより已に一年有餘、此間寸功だになく只會員の席を汚し空しく長日月を送る、小生は實に愚鈍の極なり思へば甚だ遺憾なり、嗚呼我が身の罪淺からず、如何にして此の罪を天下の同志に謝せんとするか、乞許し給へ。小生近々再び生地埼玉に歸國に當り尊き主イエスの御助力を仰ぎいさゝか社會人道改善の爲めに禁酒運動と相連りて示威的運動を試むべく準備せるに第一回、第二回は空しく、第三回準備中なれど如何せん單獨の力にて思ふ心はあれど行ふを得ず、嗚呼思へば我が身は恰も沙上の一家屋の如し。然れども健全なる精神はよく之れを支ふるとか、我等は飽迄素志を貫徹する覺悟、貴下願くば孤軍の中にある小生等を御援助せられ、埼玉縣下演說會の實現せられん事を御いのり下され度、我等を援助せられたし

▲會員諸君の投書寄稿を望む

公娼私娼の問題に限らず本會の主張する趣旨に合するものは如何なるものにても歡迎す。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

THE NANKOIN HOSPITAL

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oisc)

UNDER THE MANAGEMENT OF

Dr. K. TAKATA.

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電本 八八八番(病院用)
八九八番(自宅用)

東洋内科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町柏海濱、停車場より半里

電チガサキ 二番

南湖院

河野、高橋兩副長は目下當院に在勤

▲院長渡歐中の處先般歸朝す

修容は婦德の第一步

端正の精神は端正の容儀に宿る

常にクラブ洗粉を用ゐて氣高き素顔の美を持たれよ

朝夕クラブ白粉を用ゐて床しき薄化粧を整へられよ

毎朝クラブ齒磨を用ゐて口齒を淨め精神を爽かにせられよ

斯くして信仰深き御身の品位と健康とを保ち給ふべし

(明治四十四年八月一日第三種郵便物認可)
(大正二年十二月十日發行)(毎月一回十五日發行)

廓　清　復刻版　全33冊

1980年6月30日　一揃定価30万円

発行者　北　村　正　光

発行所　株式会社　龍　溪　書　舎

〒101　東京都千代田区神田小川町3-28-7
電話　03(233)0441(代)・振替東京3-76123

印刷・製本　日本プリントセンター

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

COLUMBIA UNIVERSITY LIBRARIES

This book is due on the date indicated below, or at the expiration of a definite period after the date of borrowing, as provided by the library rules or by special arrangement with the Librarian in charge.

DATE BORROWED	DATE DUE	DATE BORROWED	DATE DUE
C28			

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY